

大阪府出土の和同開珎

尾上 実

1 はじめに

大阪府下から発見された和同開珎は、今回の集成によれば 104 地点で総数 828+点を数える(註 1)。旧国別に見ると、摂津国の東半部が 31 地点で 54 点、河内国が 66 地点で 241 点、和泉国が 7 地点で 533 点と、和泉国が飛び抜けて多いことになる(註 2)。しかし、和泉国の 533 点の内、508 点は近藤正斎によって「土師新田」に出土したと紹介されているのみで、この例を除けば 6 地点で 25 点と、決して多くはない。

なお、大阪府下においては、中世の一括埋蔵銭から和同開珎を含めた皇朝銭は確認されておらず、また、中世以降の遺物を含む遺構や包含層から出土することはあっても、中世における使用を証明する事例はない。

2 分布の概要

特徴的な分布を示す地域をいくつか上げてみたい。まず摂津では高槻市内にやや固まった分布を示す。「上郡」の墨書土器によって、郡家川西遺跡が嶋上郡衙に当ることが明らかにされたが、近接する郡家今城遺跡(4～7)はこれと消長をともにし、関連の深い遺跡と推測されている。また、ほど遠からぬ位置にある上田部遺跡(1・2)と高槻城(3)でも、その遺物や遺構のあり方などから郡衙との関わりが考えられる。地方官衙とそれを取り巻く関係集落に和同開珎が集中する、一つのパターンを想定してもよからう。但し、大阪府下においては他に地方官衙と確認される遺跡は見当たらず、この想定の可否は検証できない。

次に難波宮の周辺を見てみたい。上町台地の尾根上に位置する難波宮の宮域からは、和同開珎の出土は確認されず、周辺の 3 ヶ所から出土している。台地の西裾部(22)は従来より「摂津職」や「鴻臚館」など、公的な施設の候補地と推定されてきた場所であり、近年の調査によって古代の建物群が検出され始めている。更に西、沖積地におり切った付近(21・23～25)に出土地点の集中が見られる。顕著な遺構は確認されていないが、地表下深くに古代の包含層が確認されており、港湾施設である「難波津」と推定されている地域である。また、台地の東側(20)では沖積層の中に難波宮期の遺物を豊富に含むが、人面墨画土器や土馬、舟形木製品、「贄」の墨書土器などを伴い、宮の東側の水辺で祭祀が行われたものであろう。和同開珎以外の皇朝銭も同様の分布を示す。

3 ヶ国の中で最も出土地点数の多い河内国の中でも、密な分布を示すのは藤井寺市を中心とする地域で、河内国府の存在や有力な渡来系氏族の居住などもあり、河内の政治的な中心地であったことは間違いない。多くは大規模な掘立柱建物群の中で、様々な遺構から発見されており、銭

貨の使用が多岐に亘っていたことを示す。この中で特に注目される遺跡は船橋遺跡(68～71)である。大和川が河内平野に流れ出す位置にあり、大和から難波、更には西国から海外への重要な経路の結節点に当る。餌香市の推定地であるが、ある時期の河内国府、或いは鑄銭司かとする説もある。戦後早くの堰堤工事により遺跡の中心である河床部分は、流失してしまったが、公表された採集品の一部だけを見ても、皇朝銭の大部分をはじめ、無文銀銭や和同開珎銀銭など、その種類も数量も極めて豊富である。

中河内でも東大阪市の生駒山地裾の扇状地部に狭い範囲の集中が見られる。大和からのもう一つの経路である、暗峠を経た時の河内への入り口に当る。平城遷都後はより一層重要な位置を占めたと考えられる。現状では包含層などからの単独出土が多く、顕著な遺構に伴ってはいない。

八尾市を中心に、東大阪市南部から大阪市東南部にかけての河内平野でも、かなりの数が出土している。この地域は弥生時代以後、数mの厚さで堆積層が見られ、遺存状況が良ければこの間に数層から十数層の水田面が検出される。これに伴う銭貨の多くは水田における祭祀に関わると見られるもので、これについては後述する。

一方、北河内には広い空白地域が見られる。旧河内湾北部の陸地化が遅れた結果であろうが、生駒西麓には古代の集落などが並んでおり、やや奇異に感じる。

和泉国は全体に分布が疎く、寺院での出土のほか、国府の周辺(100～102)に集中する傾向は窺える。

3 無文銀銭・富本銭・和同銀銭・古和同・開元通寶

和同開珎に先行する無文銀銭・富本銭、及び和同銀銭と古和同と、唐からの搬入品である開元通寶の出土について簡単に紹介しておく。

無文銀銭は船橋遺跡(69)から1点の採集が報告されている。不整円形の円板に径2.2mmの小円孔が穿たれ、表面には3片の銀片が貼付されている。長径27.6mm、短径26.3mm、厚さ1.6mm、重量10.9gで、裏面には「×」の線刻がある。また、後掲の集成表には記載していないが、摂津国天王寺村字真寶院から100点ほどの無文銀銭の出土が知られている。宝暦十一(1761)年の出土で、多くは吹き直されたが、1点のみが現存する。径29.1～31mm、孔径4.4～6mm、重量10.76gと報告されている。出土地は現在の大阪市天王寺区真法院町と見られ、四天王寺の東北に当り、細工谷遺跡にも近い(註3)。

富本銭は細工谷遺跡(26)から1点出土している。谷筋を利用して排水用に掘られたと考えられる溝SD603の検出面から発見された。溝内の土器は飛鳥V以前のもので、その年代は7世紀末葉～8世紀初頭としている。本例は飛鳥池例などとは范型が異なっており、文字面・裏面ともに凹凸が小さいことや、直径が小さく重量が軽いことなどが特徴としてあげられる。外縁径2.28mm、同厚さ0.81mm、重さ2.05gを計る。なお、この溝や同時期の遺構からは鑄造関係の遺物は出土しておらず、本遺跡が鑄造に関わる前の遺物である。

和同銀銭は5地点から各1点ずつ出土している。天下茶屋(30)、船橋遺跡(71)、大井(75)は採集品で、船橋遺跡は前述のような遺跡であるが、他の二者についての詳細は不明。辻子谷火葬墓

(36)は石組の中に土師器の蔵骨器を納めた墳墓で、付近に火葬墓は多い。平尾山雁多尾畑1号墓(63)では、周囲の石組の壁と、骨蔵器を載せる台石の間から和同銀銭が検出されたのに対して、傾けた骨蔵器の肩と台石の間に挟まれた状態で、重ねた4点の和同銅銭が出土しており、銀銭と銅銭では明らかに扱いが異なっていることが分る。なお、これらの地点は大和から難波へ向かう、南と北のルートに近接している点が分布上の特徴であろう。

不隸開のいわゆる古和同は、細工谷遺跡(26)から2点が出土した。SD501から多数の新和同や枝銭などに混じっての出土。共に完形品ではあるが1点は鋳損じがある。外径24.87mm、重量2.54gと外径23.69mm、重量2.91gを計る。土塔(99)からも1点の古和同が出土した。塔頂部の中世の掘削跡から発見されたものである。

古代に遡る開元通寶も2地点で1点ずつ発見されている。大坂城跡(22)では建物群が検出された地山面を覆う第4層から出土した。この層に含まれる土器の下限は平安時代初頭とされ、その年代を示す。細工谷遺跡(26)のSD501から出土した開元通寶は、溶融しかかっており、「通」字によってかろうじて識別できる。和同開珎の不良品とともに鋳造の材料とされたものであろうか。

4 埋納状況

多くの場合、出土する和同開珎は、何らかの祭祀的な行動の結果と考えられる。出土する遺構や、出土状況から、いくつかの類型に当てはめることが可能なものをあげて見る。

・地鎮に関わる土坑

九頭神遺跡(32)S04037は計画的な建物群の正面、平坦地から谷にかかろうとする斜面に設けられている。和同開珎11点と鉄製小札・不明鉄製品を納めており、建物群の中軸線延長に近い位置もあって、建物群全体に対する地鎮遺構と考えることができよう。

・柱穴への埋納

建物の地鎮と見られるが、大阪府下では3例が確認できる。岡2丁目所在遺跡(95)では妻柱の堀方に1点の埋納があった。はさみ山遺跡(84)では総柱建物の堀方に縹状に重ねた9点の銭貨が納められていた。ともに堀方底部ではなく、埋め戻し途中で置かれている。四天王寺(29)では創建講堂の上面にあけられた柱穴の一つから出土した。この柱穴は基壇外の地表面にも及んでおり、足場穴と見るのが順当であろうが、講堂の創建は出土瓦から奈良前期とされており、時期的に疑問でもあるし、足場穴に地鎮行為が行われるのかも問題。

・土器埋納遺構

百済寺遺跡(35)では須恵器の薬壺に4点の和同開珎が納められている。建物群の一画にあり、胞衣壺の可能性を示唆している。はさみ山遺跡(85)では土坑底に須恵器の広口壺を据え、一旦その口まで埋め戻した後、壺の横に10点の縹銭を置き、須恵器に板石で蓋をしている。報告者は地鎮祭祀を想定しているが、調査区が狭く周辺の様相は不明。

・墳墓

従来は銭貨を伴う遺構の中で、その性格の把握が容易なものとして、墳墓が考えられていた。今回の集成表も、報告書の記載を元に作成しており、「墳墓」とあるのは調査者の認識に基づく。

しかし、小林義孝は土師の里遺跡(81)の墓 17 や、太平寺古墓群(64)の古墓－2～4を火葬に伴う灰の埋納遺構と考え、墳墓遺構自体の再検討を迫っている(註 4)。今回は小林の報告も予定されており、ここでは墳墓については述べない。

・塔

土塔(99)の最上層上面には円形構造物の跡が確認されている。『行基菩薩行状絵伝』には宝珠様の物が描かれている。土塔は特異な構造物ではあるが、機能的には大野寺の塔である。この宝珠様のものが舍利を納める機能を持ったのであれば、出土した和同開珎は舎利の荘厳具の一部であらうか。

・水田

河内平野の遺跡から発見される銭貨の多くは水田、もしくは水田に関わる溝などから出土している。巨摩廃寺遺跡(42)・池島・福万寺遺跡(45)・志紀遺跡(52・53)・西大井遺跡(74)では畦畔などを伴う水田面から和同開珎が検出されており、鬼虎川遺跡(37)・佐堂遺跡(48)・亀井遺跡(50)・田井中遺跡(54・55)・西大井遺跡(72・73)も水田に伴った可能性が高い。

池島・福万寺遺跡(45)では広範な水田遺構の調査を続けており、農耕地としての変遷が明らかにされつつある。注目すべき成果の一つは、各水田面に見られる祭祀の痕跡である。坪境を中心に、土器を埋めた土器埋納遺構が多数検出されるほか、銅製の鈴もかなり埋められている。本来、この場所に無いはずの小石が持ち込まれ、畦畔などに置かれ、獣骨も同様である。何らかの祭祀的行為を考えざるを得ない。馬鍬の歯や鉄鍬も亡失とは思えないほど、各遺跡から出土し、或いはこれも祭祀具であるかも知れない。銭貨は埋納土壌の検出が難しく、原位置が押さえにくい、第9面では2点の出土位置が確認できた。この面では畦畔の遺存は良くないが、第8面などを参考にすれば、坪境に近い位置にあたることが分かる。但し、水田の層序と銭貨の鑄造順は必ずしも一致していない。

志紀遺跡(53)の6B区では、第5面が8世紀中葉の水田にあたる。溝や畦畔で方形に区画されており、坪境の溝49から和同開珎が出土している。この溝には両側に畦畔を伴うが、そのところどころから石や獣骨が出土している。溝の交点付近は特に著しい。

水田における祭祀は、土器に何物かを収めて埋納する形が古くから継続する中に、銅鈴や獣骨、小石などを埋納する形が上乘せされていく。銭貨埋納も新しい呪的要素として導入されたと考えられる。

・河川

河川から祭祀的様相をもって銭貨が出土する時、銭貨が主となる場合と、銭貨が副次的な場合とがある。前者の好例が小阪合遺跡(46・47)である。同一の人工河川であるが、調査区によって異なる名称が与えられている。川200部分では2ヶ所に和同開珎のみが集中して出土した。B群は30点が縋状態で発見され、A群は1×0.5m程度の範囲から28点が散乱していた。これも本来は縋銭であろう。周辺に特にこれに関わると見られる遺物や遺構は無い。この両群の和同開珎は鑄不足の物もあり、また、鑄型の劣化のためであろうか、文字が必ずしも鮮明ではない物もあるが、そのほとんど全ての表面にはヤスリ痕が明瞭に残る。ほとんど未使用の状態であったろう。

新品の銭貨ばかり 30 点ほどを繻状態で河川に投入する、そんな形の祭祀が想定できる。

一方、その少し上流にあたる川 719 部分と、100 河部分では様相が異なる。やや集中する部分はあるが、単独出土も多い。いずれも河底近くからの出土である。銭種は和同開珎以降、貞観永寶までの各銭種が数の多少はあっても揃っている。銭貨を投入する行為が、長期に亘って継続したことを示す。河川からは墨書土器や獣骨など、祭祀的要素を持つ遺物も出土しているが、その数は多くはなく、銭貨投入こそが祭祀の中心であったと考えられる。なお、これらの銭貨にはヤスリ痕を残すものもあるが、大部分はかなりの使用を経ている。

一方、加美遺跡(57)では大規模な人工的な流路である SD401 から、人形、斎串、舟形、絵馬などの木製祭祀具や、人面墨画土器、動物遺体などが多量に出土している。人面墨画土器を資料に例示した。これら多量の祭祀具を投入する行為が、繰り返し行われたのであろうが、出土した銭貨は和同開珎 1 点のみである。ここでは銭貨が祭祀の主たる部分を担うのではなく、付随的な要素であったと考えられよう。長原遺跡(61)でも流路 SD501 から和同開珎 1 点が出土している。この調査区は狭いため遺物量は少ないが、この流路の延長部の調査では多量の祭祀関係遺物を出土しており、加美遺跡と同様の祭祀が想定できる。

・井戸

井戸を設けるにあたって銭貨を使用している好例が高槻城(3)の井戸 3 である。井戸枠の裏込め土の中から 14 点の皇朝銭が発見されている。方位や層位に関係なく、1 枚ずつ分離して出土しており、枠を組み上げる作業とともに埋納していったことが窺える。井戸の構築に伴う祭祀のあり方の一つであろう。郡家今城遺跡(6)の井戸でも井戸枠の掘り方から和同開珎が出土しており、井戸の構築時に埋納されたものである。

一方、井戸枠内から、或いは枠の無い井戸から出土する時は、どの時点で投入されたか判断できないことが多い。はさみ山遺跡(82)の No. 25-N 井戸は深さ 7.2m の素掘りの井戸であるが、下層 1.3m ほどの部分は多くの完形品を含む、壺や甕などがぎっしり詰った状態で埋まっていた。このような状態ではとうてい井戸として機能したとは考えられず、これらの土器は井戸の廃棄に伴って投入されたものであろう。この中に 2 点の和同開珎が含まれていたが、1 点は壺の中に入って出土した。これらも井戸の廃棄に伴う祭祀により井戸に投入されたものであろう。葛井寺遺跡(79)の井戸 SE01 でも下層から多量の土器を伴って和同開珎が出土しており、同様の想定が可能である。

4 特異な遺跡

・細工谷遺跡

細工谷遺跡(26)では枝銭をはじめとする、鑄造失敗品が多量に出土している。更に素材となる銅板や金鉛などもあり、鑄造に携わる工房があったことは間違いなかろう。この工房については報告書においても、いくつかの可能性が提示されている。まず、文献に名前を残さない難波鑄銭司とでも呼ぶべき、官営の鑄銭工房の可能性である。私鑄銭工房の可能性も否定できない。また、この地が百済尼寺に近接することから、百済王氏が官許を得たとする考えもある。一方、和同開

珎は単なる素材であって、百済尼寺に供給される銅製品の工房と考えることもできる。現段階ではいずれとも決し難い。なお、和同開珎のバリ銭は宮山遺跡(92)でも出土している。堰が切り取られていないほか、周縁や孔にも細かいバリが残り、ヤスリで研磨した痕跡は無い。鉾滓や羽口など、鑄造関係の遺物は供伴していない。

・土師新田(98)

鉄函に入れた 508 点もの和同開珎が出土しているが、近藤正斎の記録のみによって知られる。出土品は散逸してしまい、伝世していない。また、出土場所も特定されていない。多量の銭貨を鉄函に入れ、更に土中に埋めたのであれば、蓄銭叙位令などに関わる備蓄行為であろうか。或いは、「意ふに中世に埋めしものなるべし」とする点から、和同開珎以外に渡来銭などが含まれており、中世埋蔵銭の一例であった可能性も否定できない。

5 おわりに

今回の集成にあたっては、小林義孝・駒井正明・嶋谷和彦・高萩千秋・田中早苗・増田真木・松岡良憲・松村恵司の諸氏より懇切なご教示を得たほか、文献の探索にあたっては(財)大阪府文化財センター・大阪府教育委員会文化財調査事務所・府立狭山池博物館のご協力を得た。感謝したい。

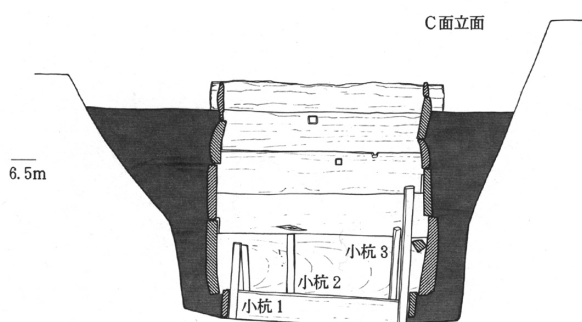
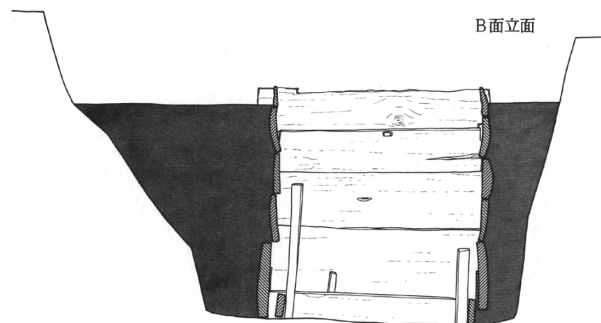
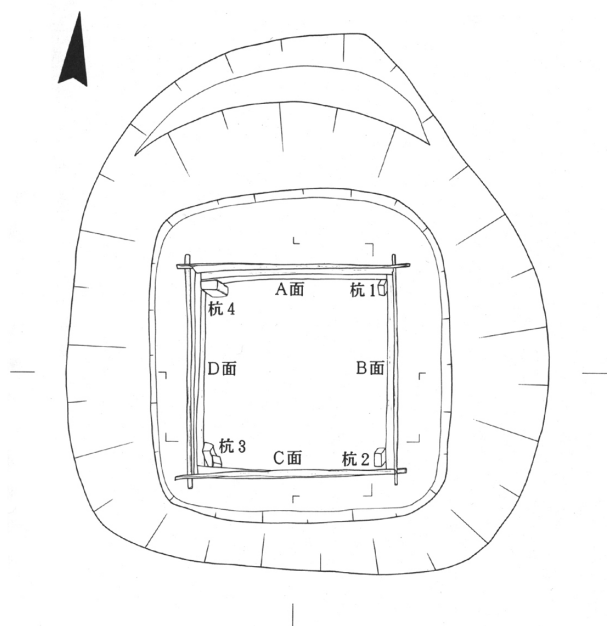
〔註〕

(註 1) 同一遺跡でも調査次数が異なる場合には 1 地点として数えた。

(註 2) 和泉は天平宝字元(757)年に河内から分置されたものであるが、本稿では年代に拘らず、和泉国として扱う。

(註 3) 松村恵司「無文銀銭の再検討」『古代の銀と銀銭をめぐる史的検討』、2007 年。

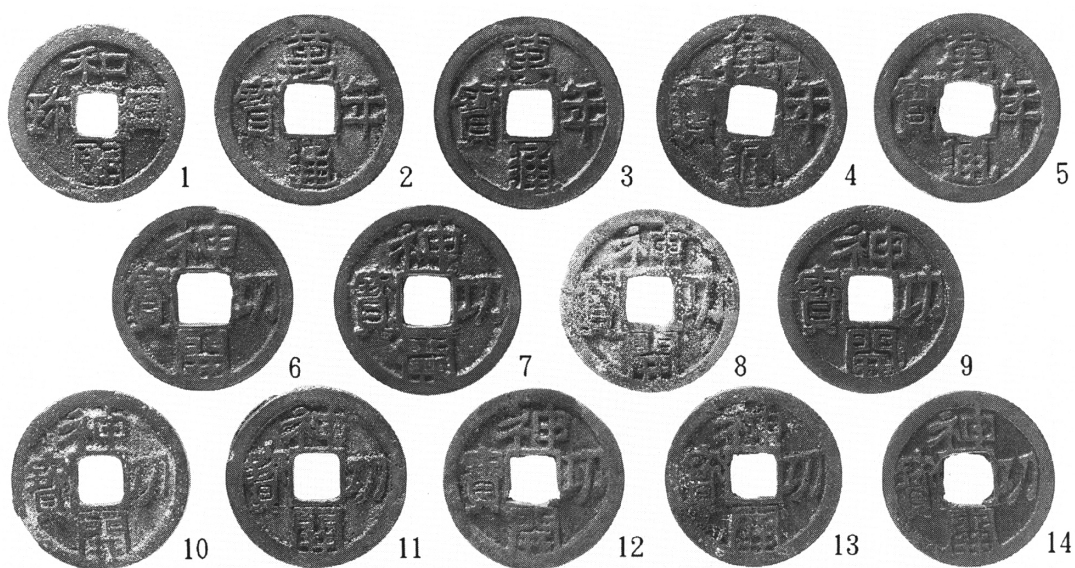
(註 4) 小林義孝「古代墳墓の分析視覚」『古代文化』第 51 巻第 12 号、1999 年。



青灰色粘土

0 2m

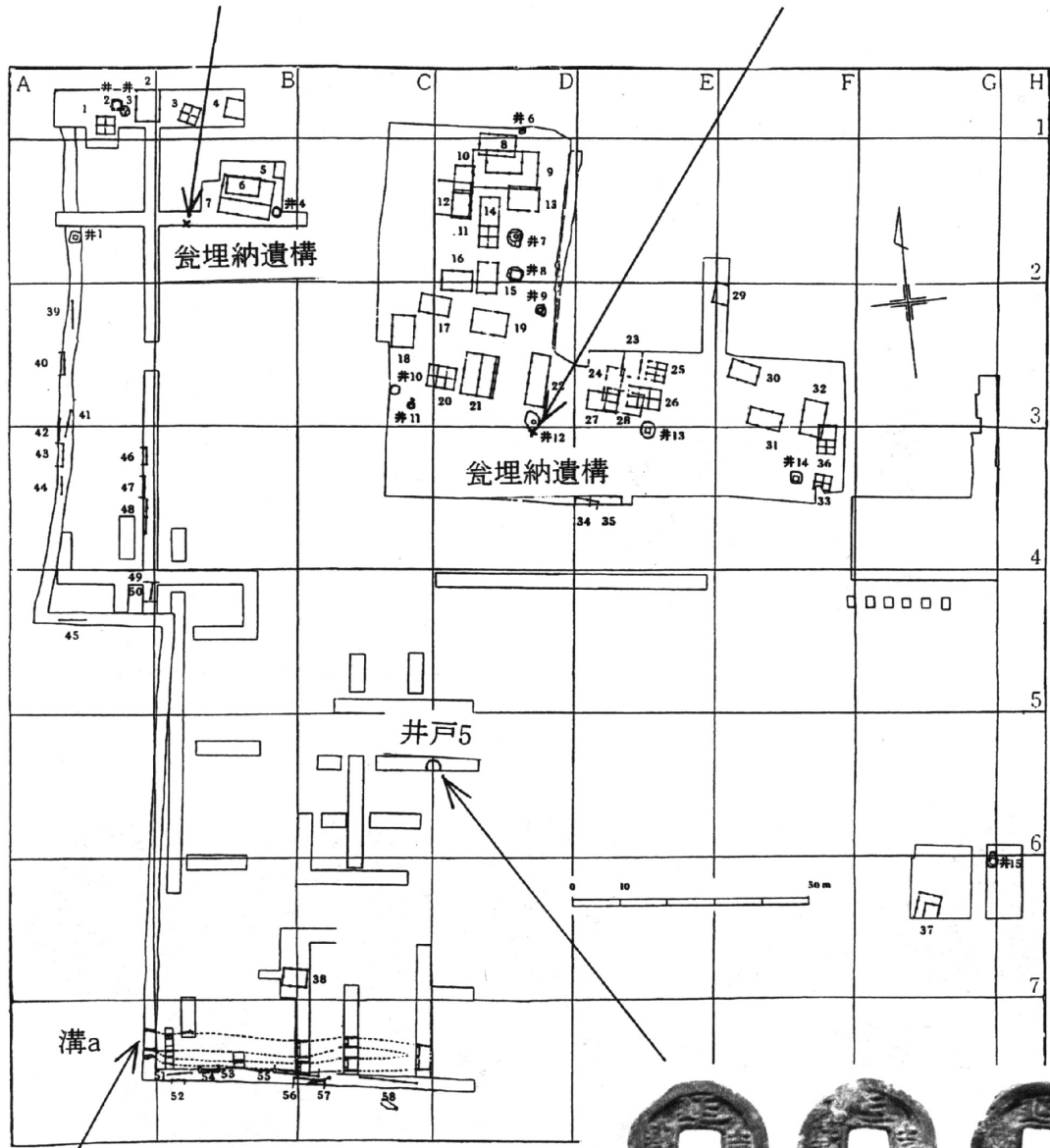
井戸3



高槻城跡 (3)



79



234



237



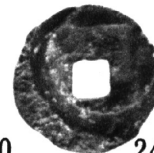
238



239



240



241



242

郡家今城遺跡 (4)



195



196

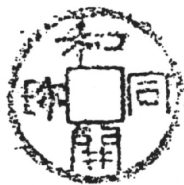
上田部遺跡 (1)



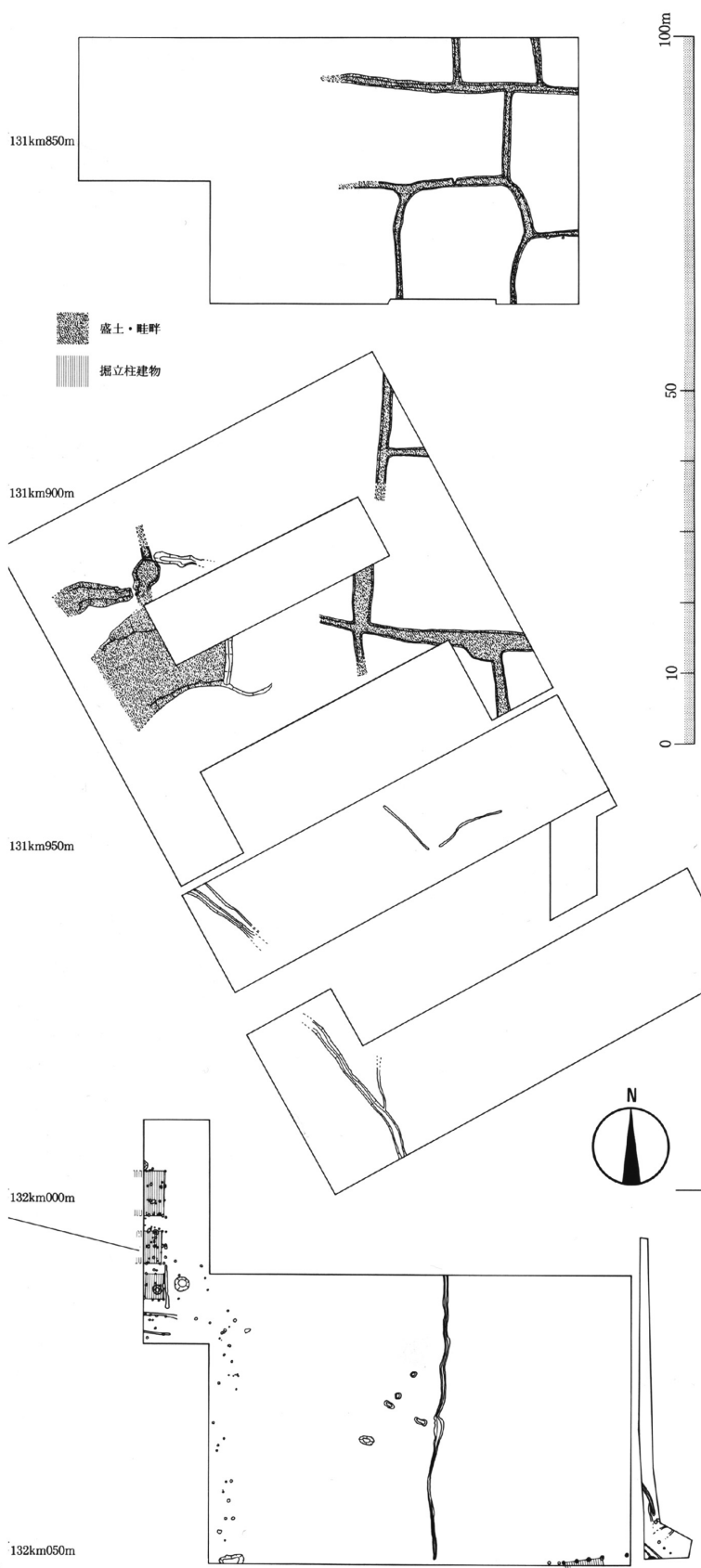
郡家今城遺跡 (6)



淀川河床遺跡 (9)

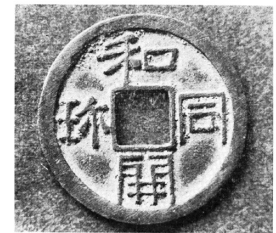
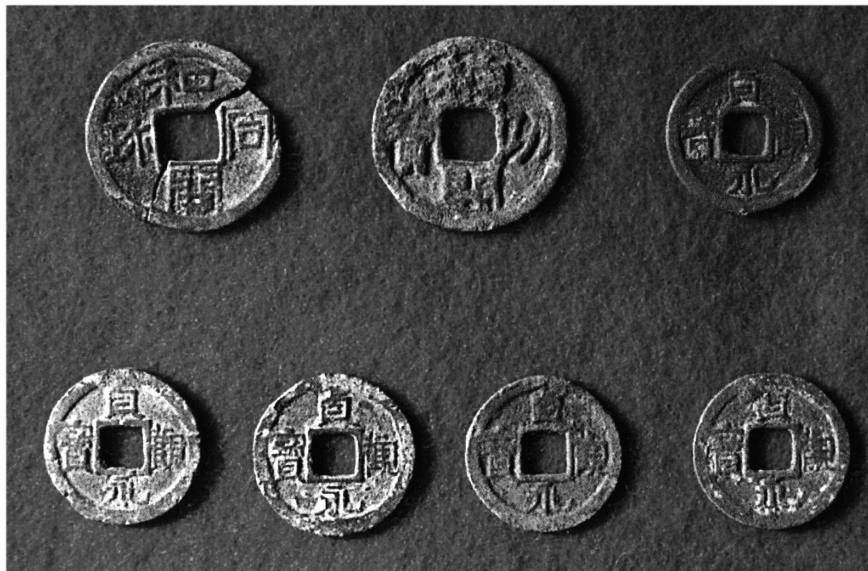


瀬川4丁目第1地点遺跡 (10)



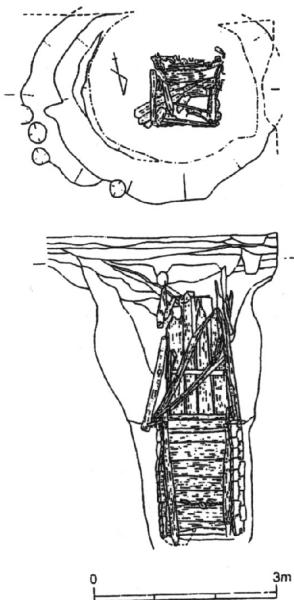
新庄遺跡 (8)

第4-c面遺構平面図

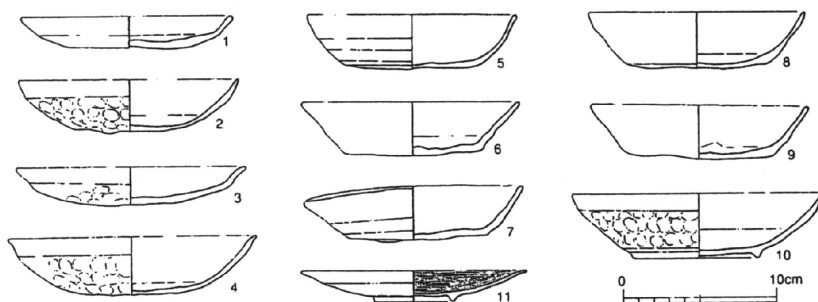
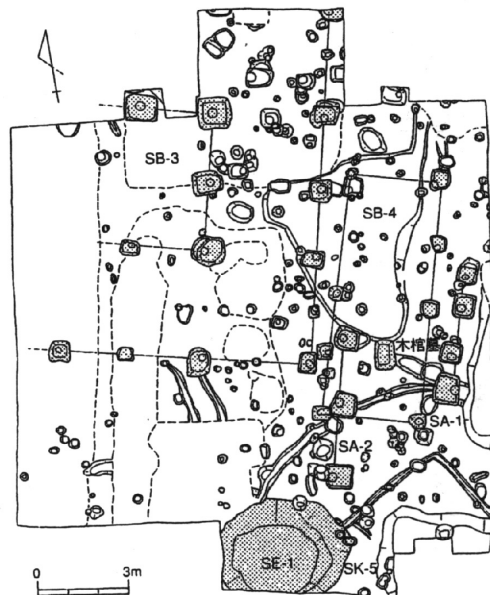


五反島遺跡 (14)

榎坂遺跡 (12)

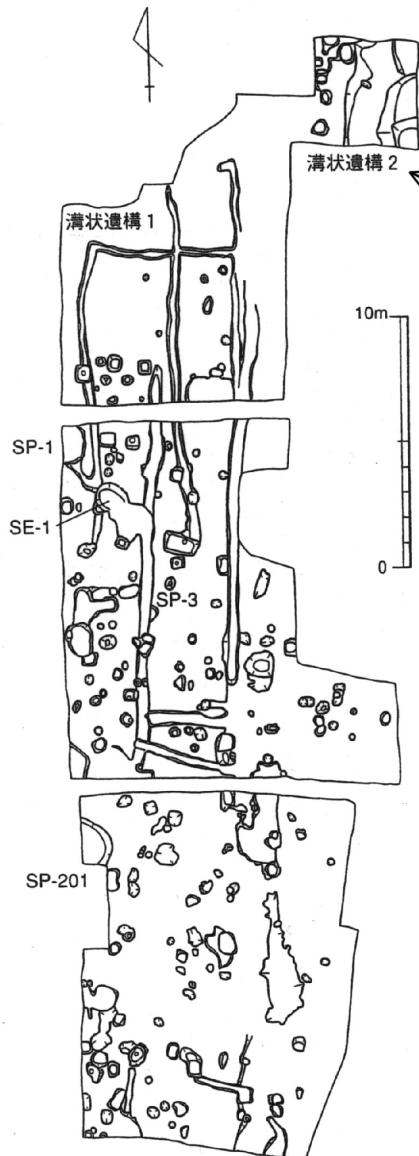
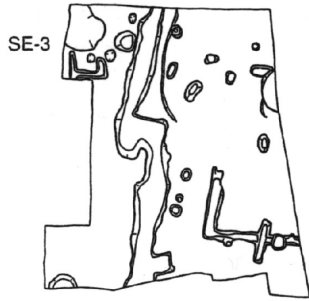


SE-1

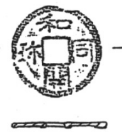


SE-1出土土器

曾根遺跡 (15)

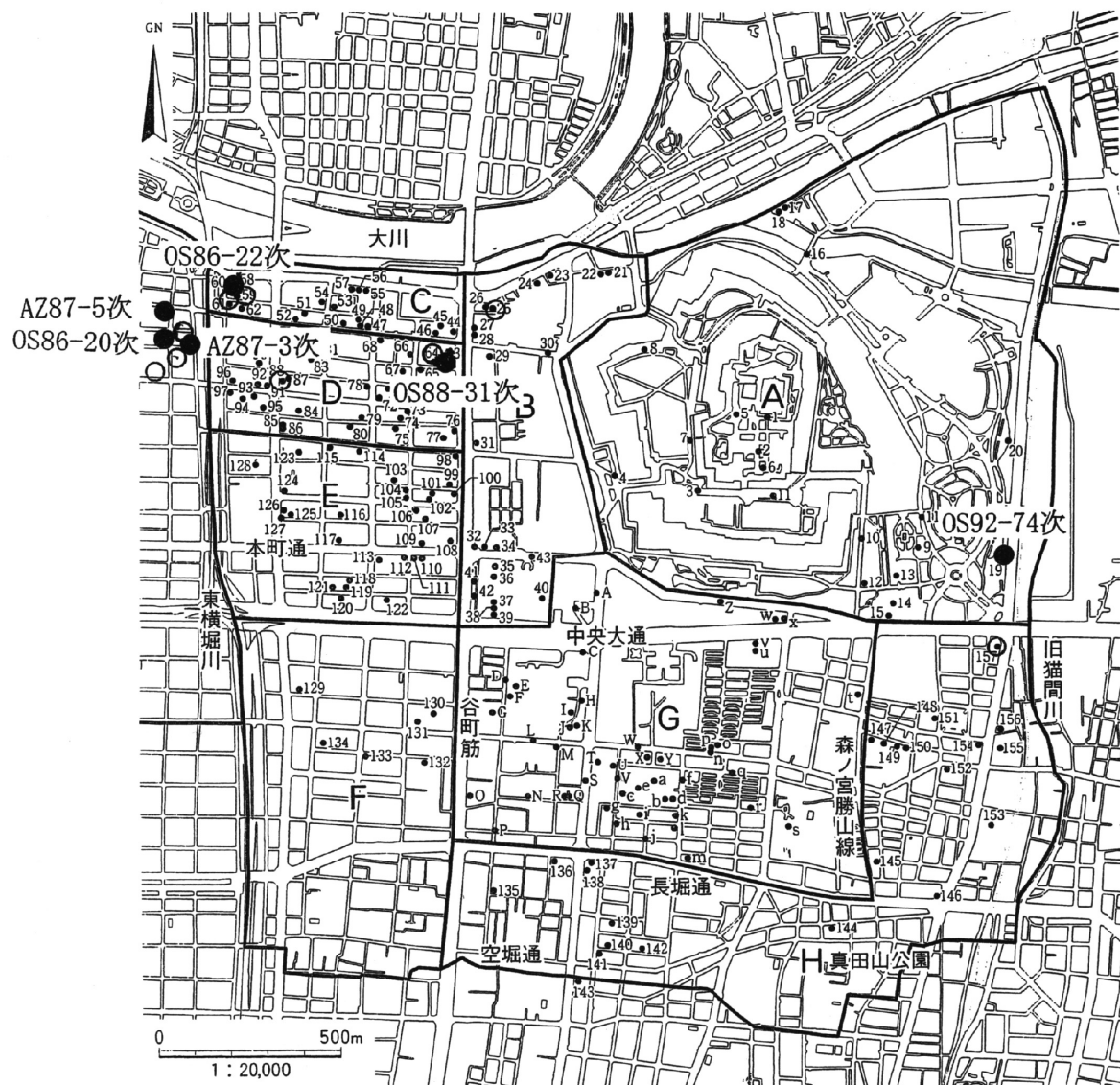


島田遺跡 (16)



上津島遺跡 (17)



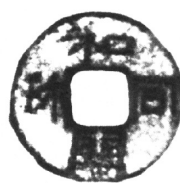


大坂城跡・大坂城下町

- 和同開珎出土調査区
- 他種皇朝銭出土調査区



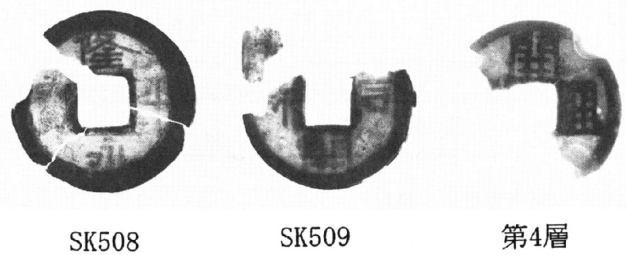
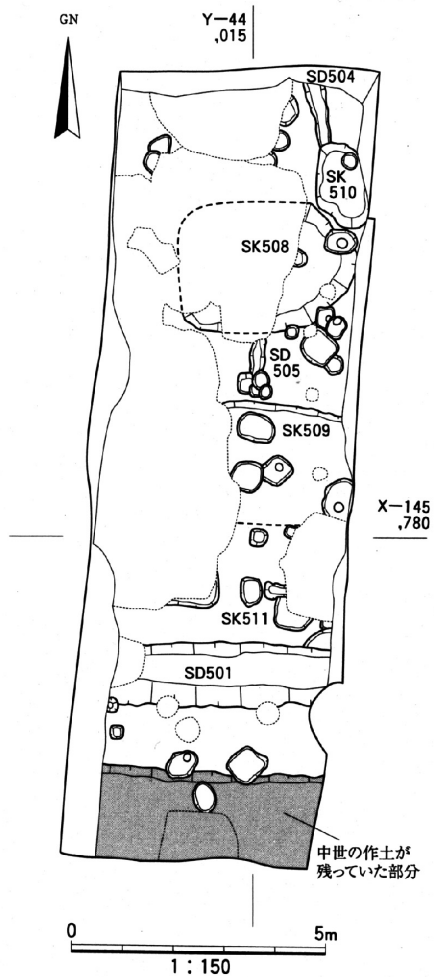
細工谷遺跡 (27)

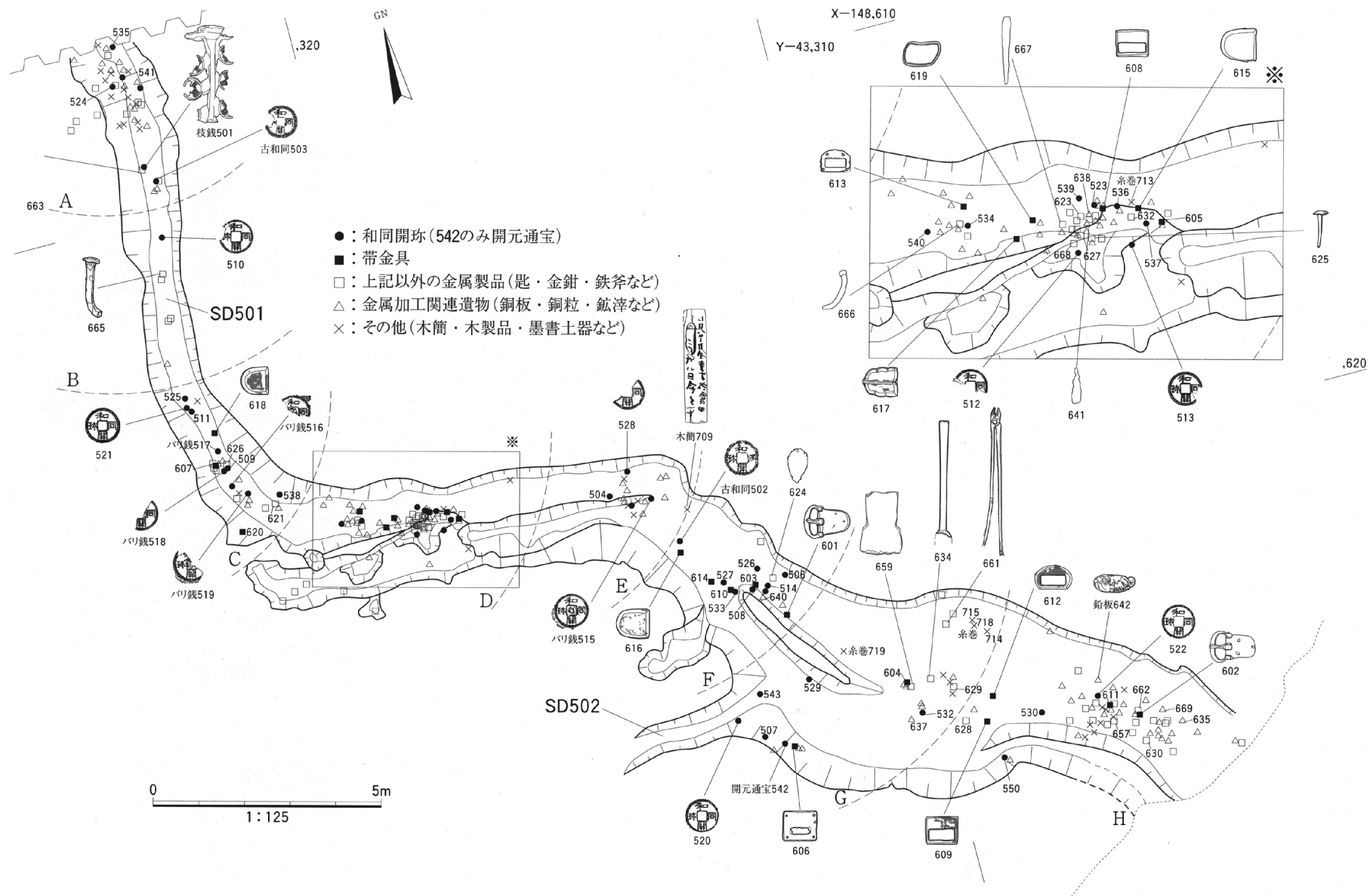


細工谷遺跡 (28)

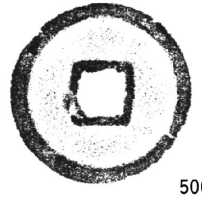
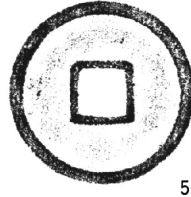
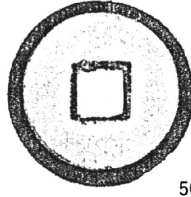
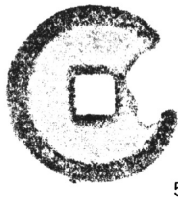
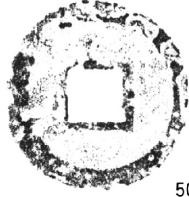


OS88-31次とその周辺の古代の遺構





細工谷遺跡 (26)



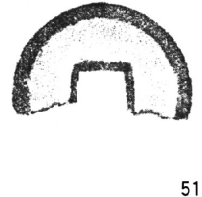
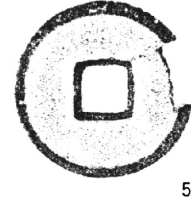
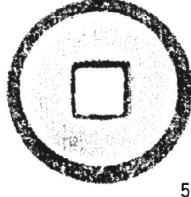
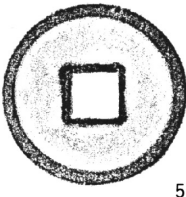
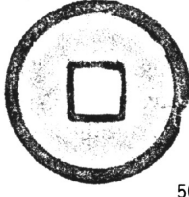
502

503

504

505

506



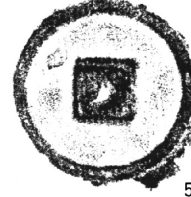
507

508

509

510

511



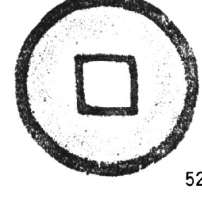
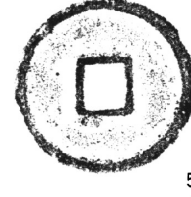
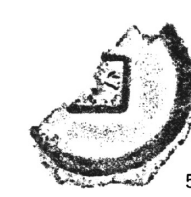
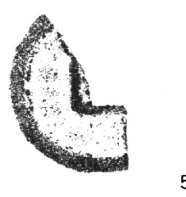
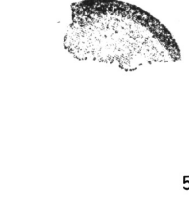
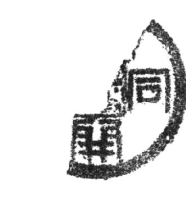
512

513

514

515

516



517

518

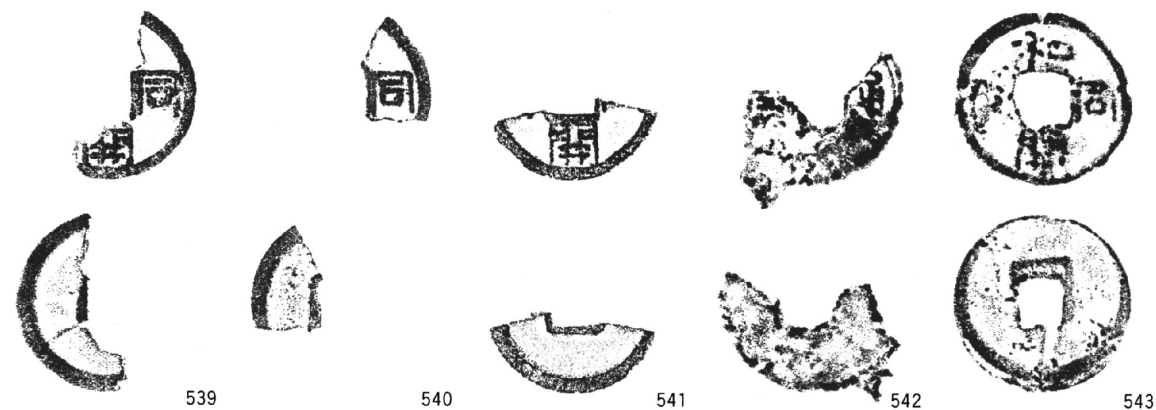
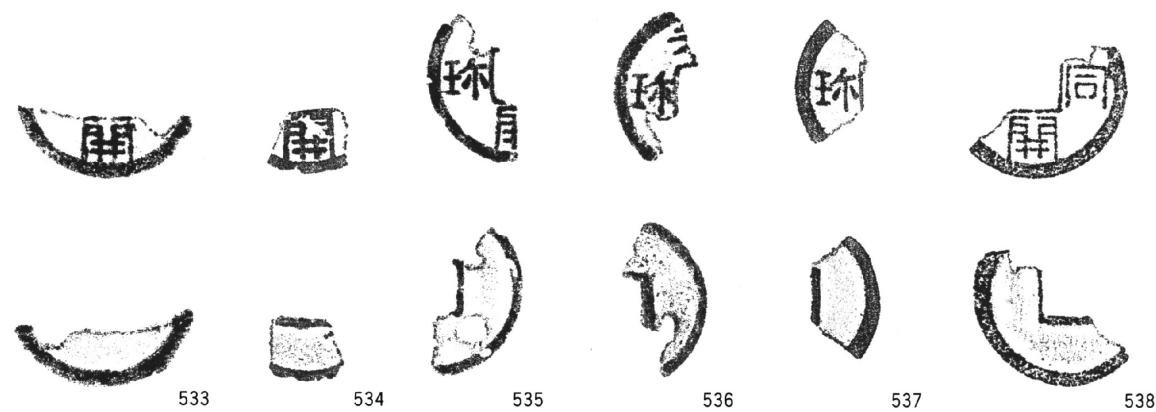
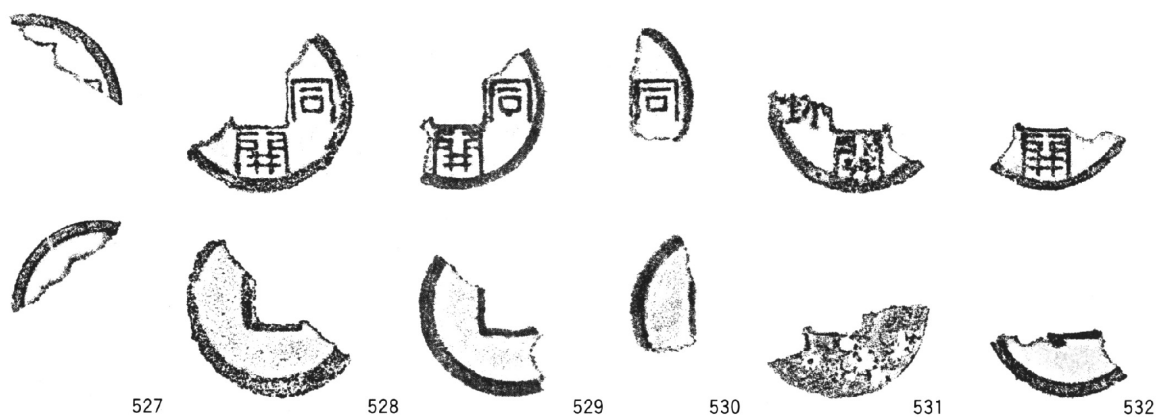
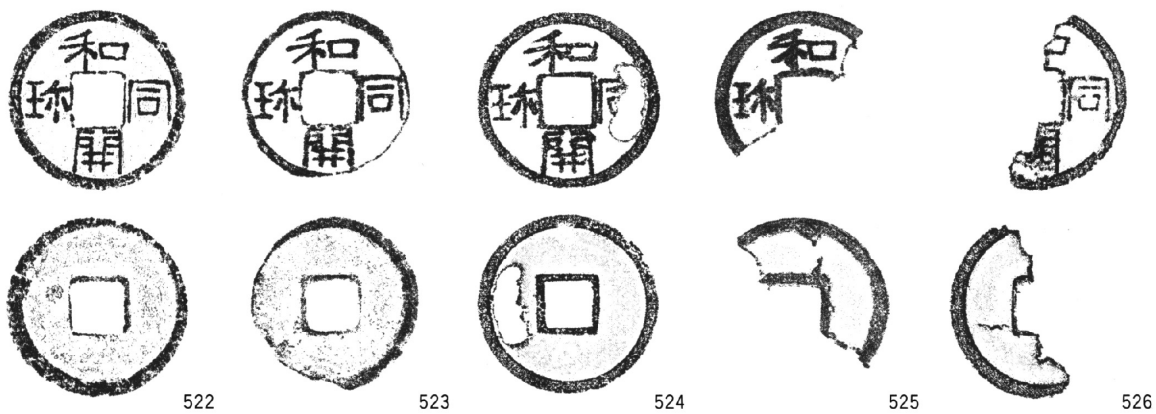
519

520

521

SD501 (502~521)

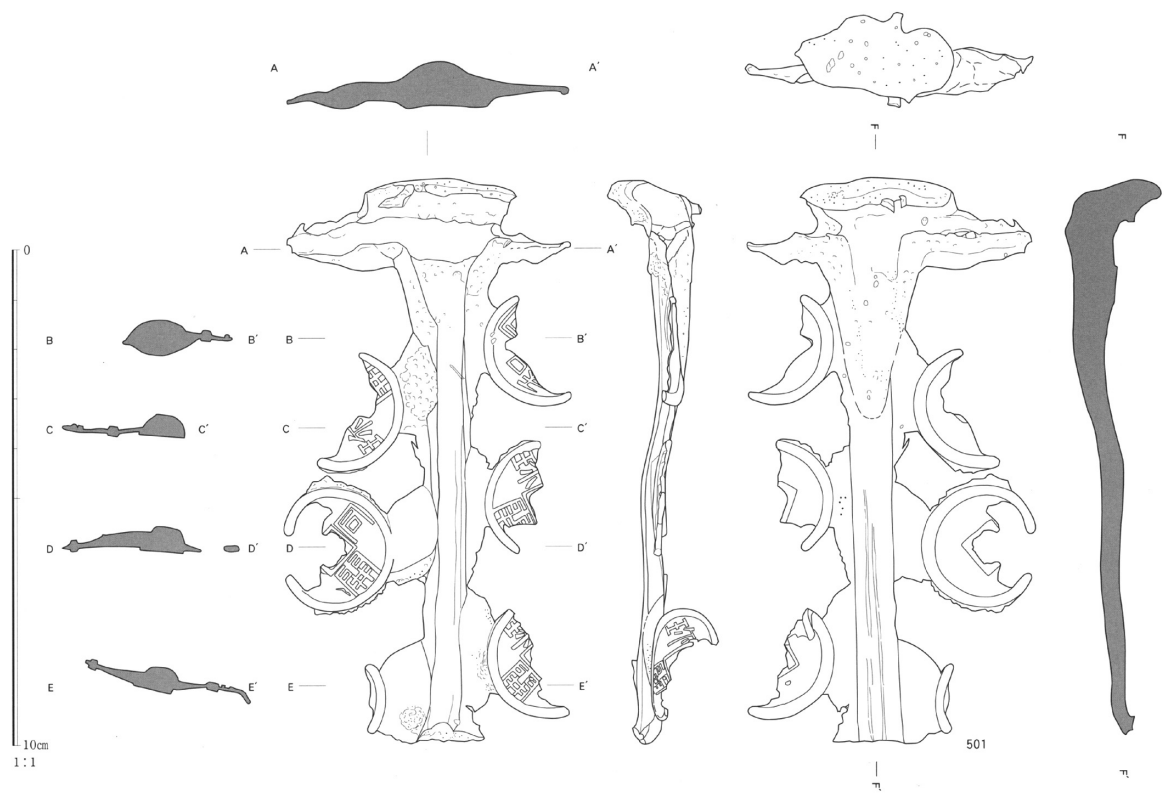
細工谷遺跡 (26)



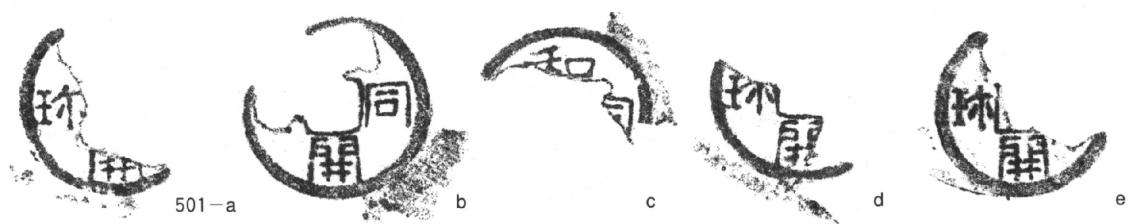
SD501 (522~542)

SD502 (543)

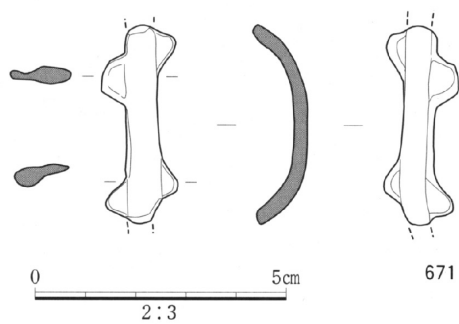
細工谷遺跡 (26)



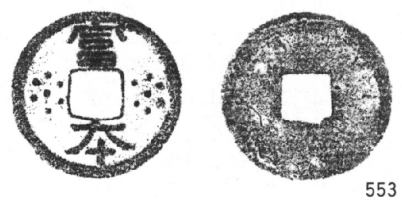
枝錢



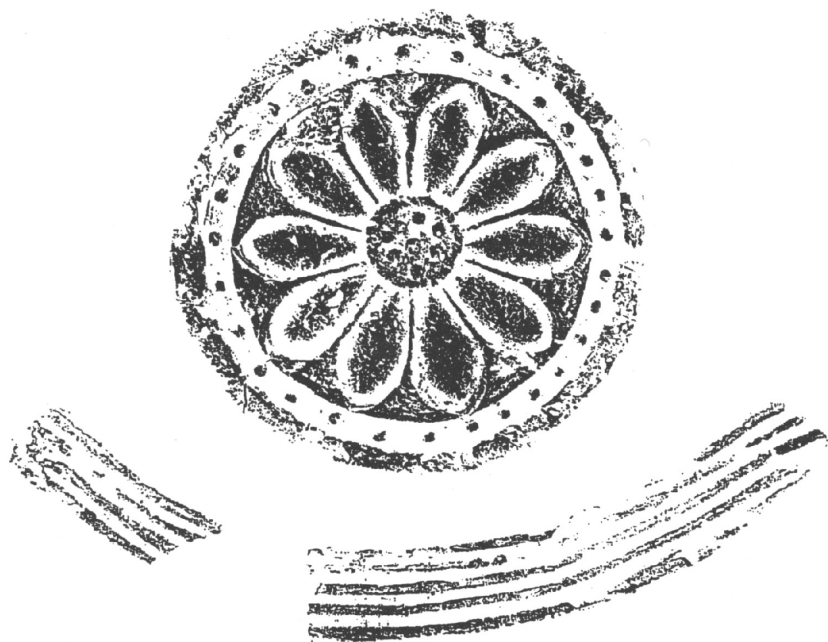
枝錢錢貨部分



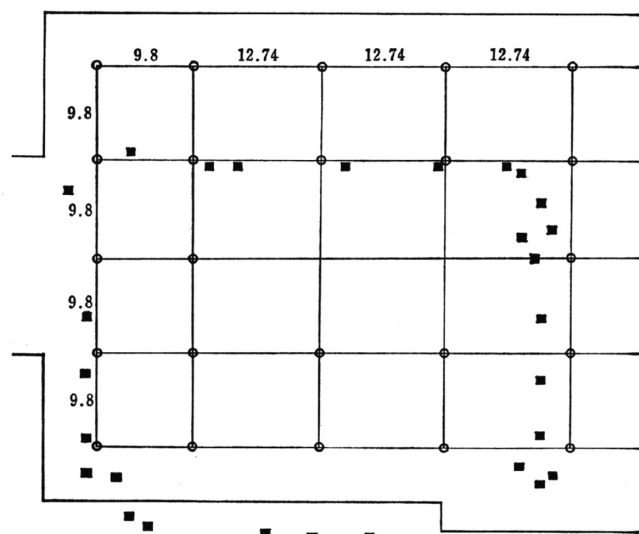
鑄棹



富本錢

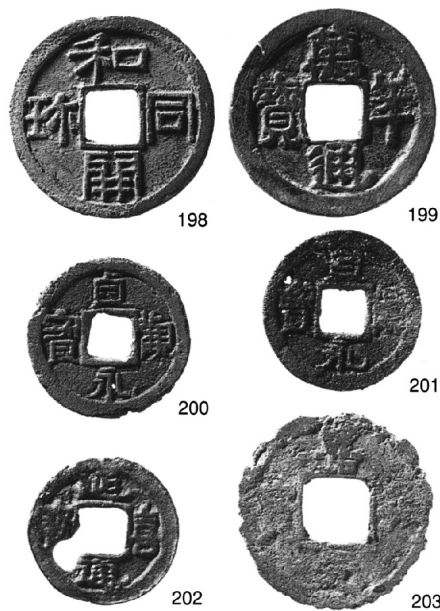


講堂北縁部出土瓦

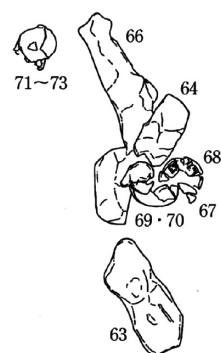
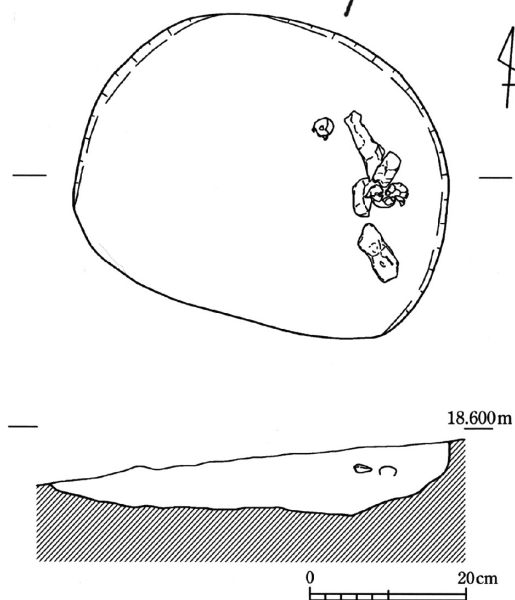


講堂基壇上面及び周辺の柱穴

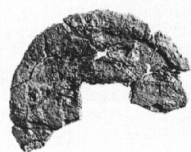
四天王寺 (29)



南住吉遺跡 (31)



67~77 和同開珎
63~65 鉄製小札
66 不明鉄製品



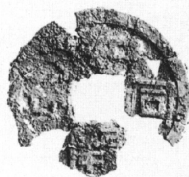
67



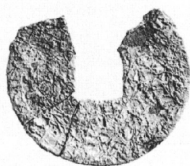
72 73



75



68



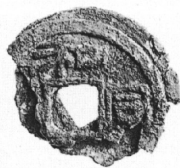
71



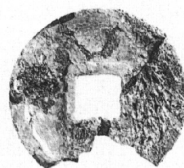
76 77



67'



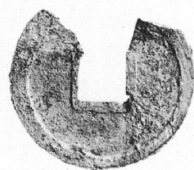
72' 73'



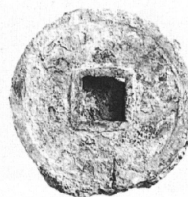
75'



68'

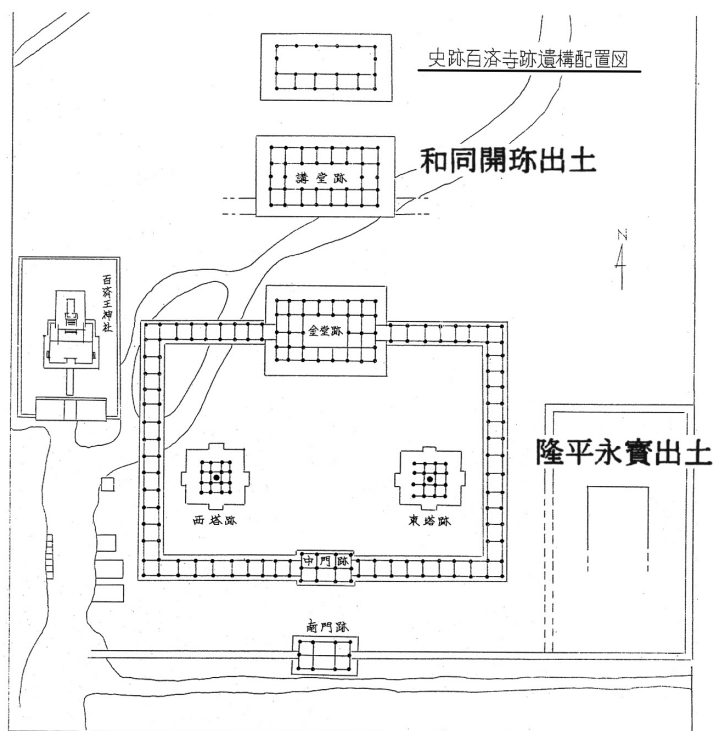


71'

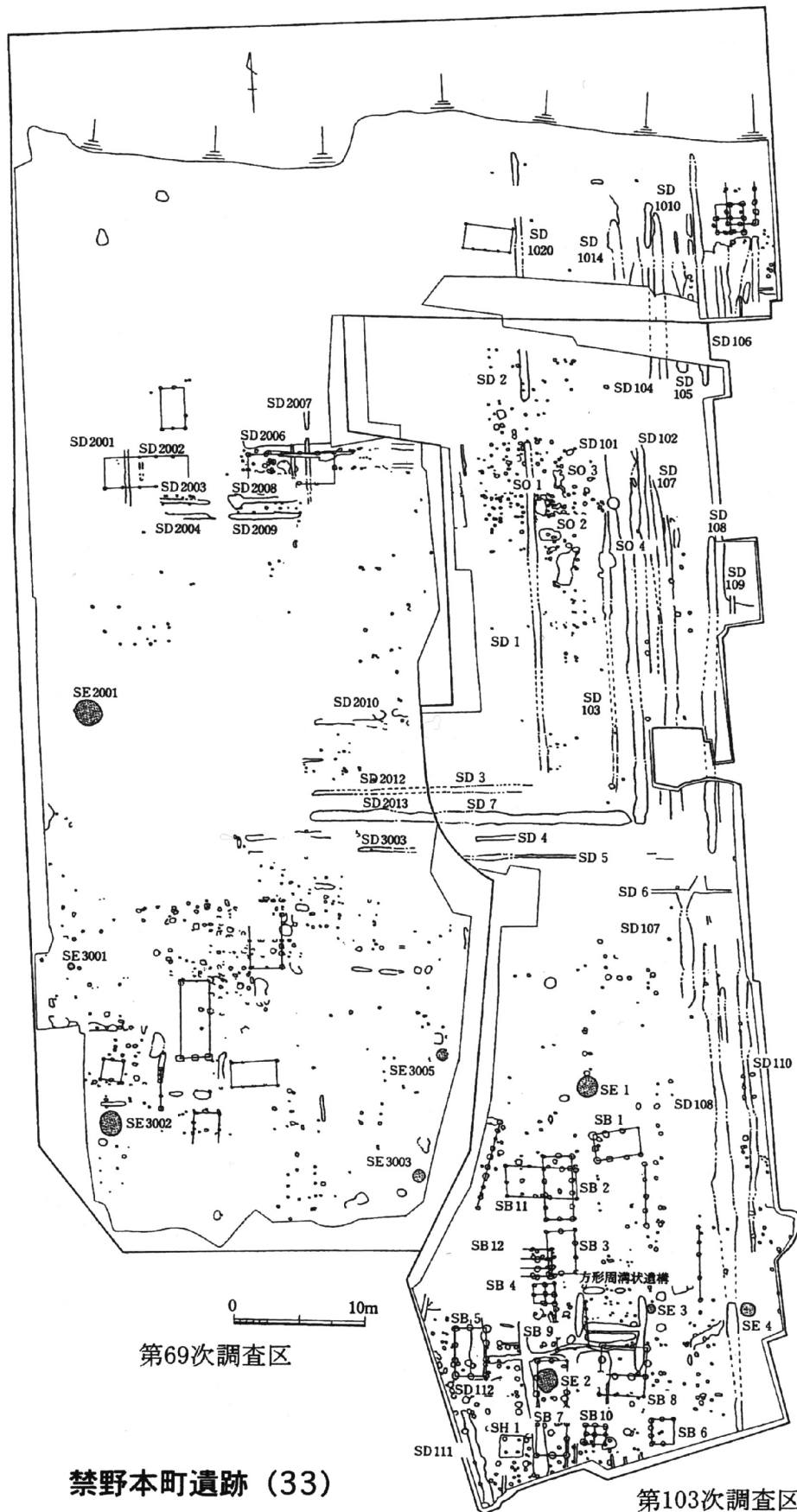


76' 77'

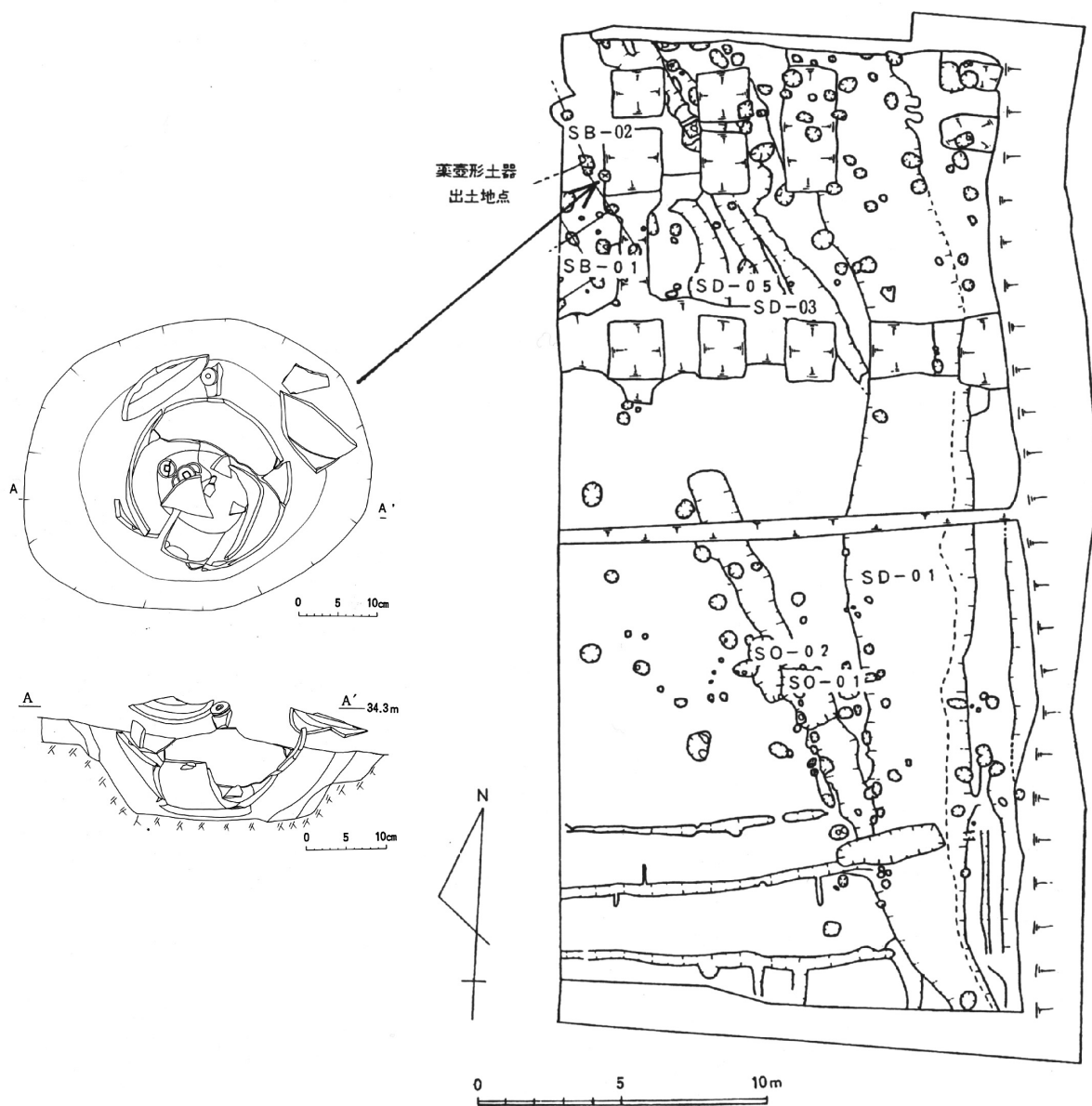
九頭神遺跡 (32)



百濟寺跡 (34)



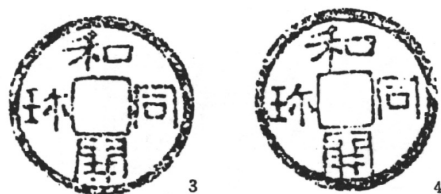
禁野本町遺跡 (33)



百濟寺遺跡 (35)



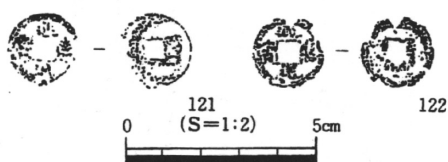
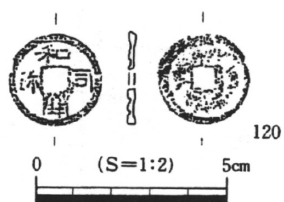
辻子谷火葬墓 (36)



鬼虎川遺跡 (37)



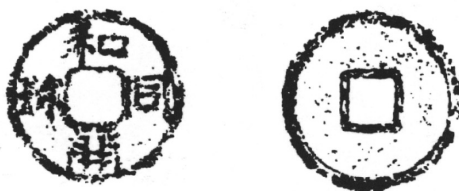
鬼塚遺跡 (39)



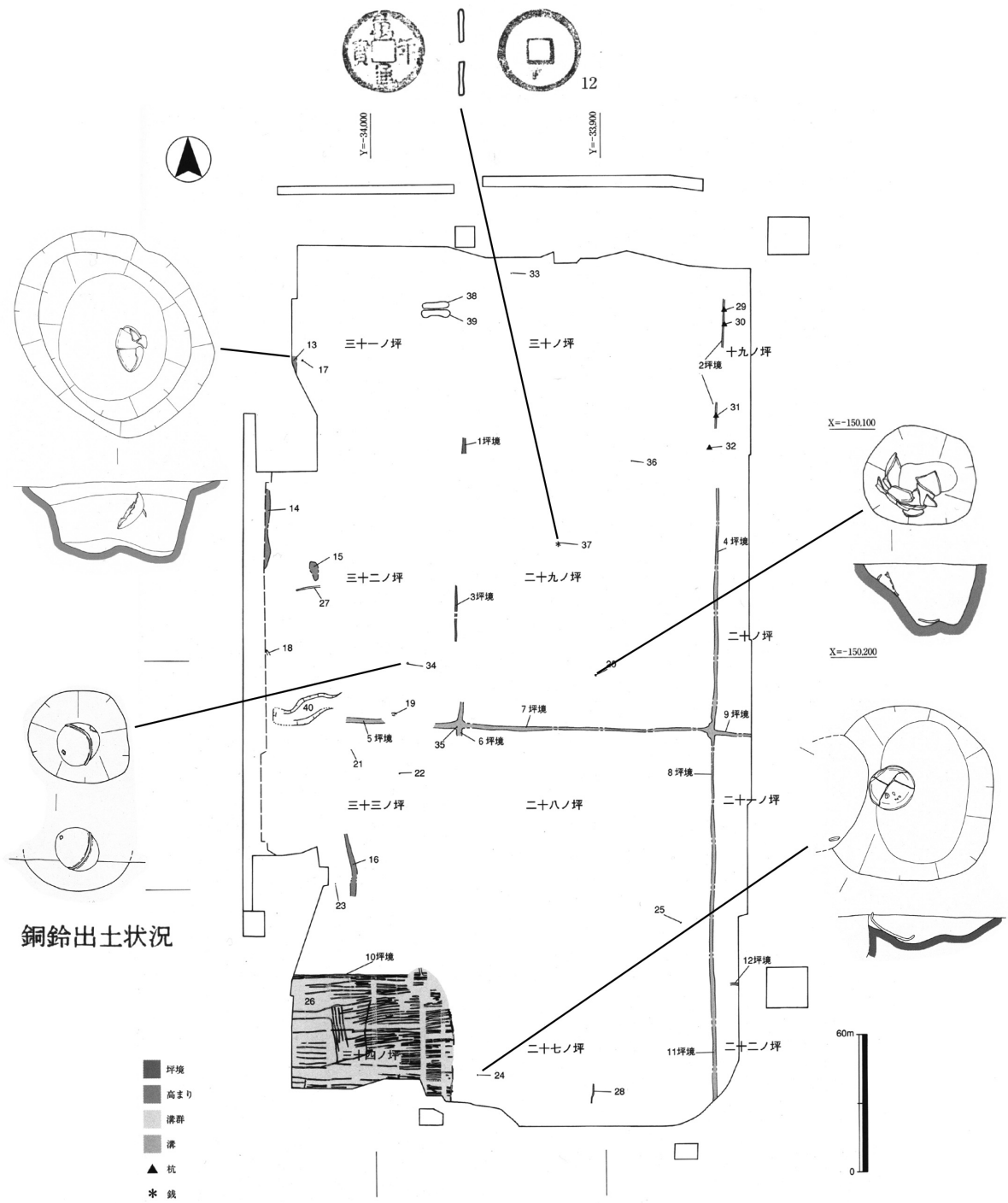
巨摩廃寺遺跡 (42)



若江北遺跡 (43)



山賀遺跡 (44)



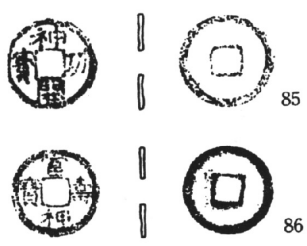
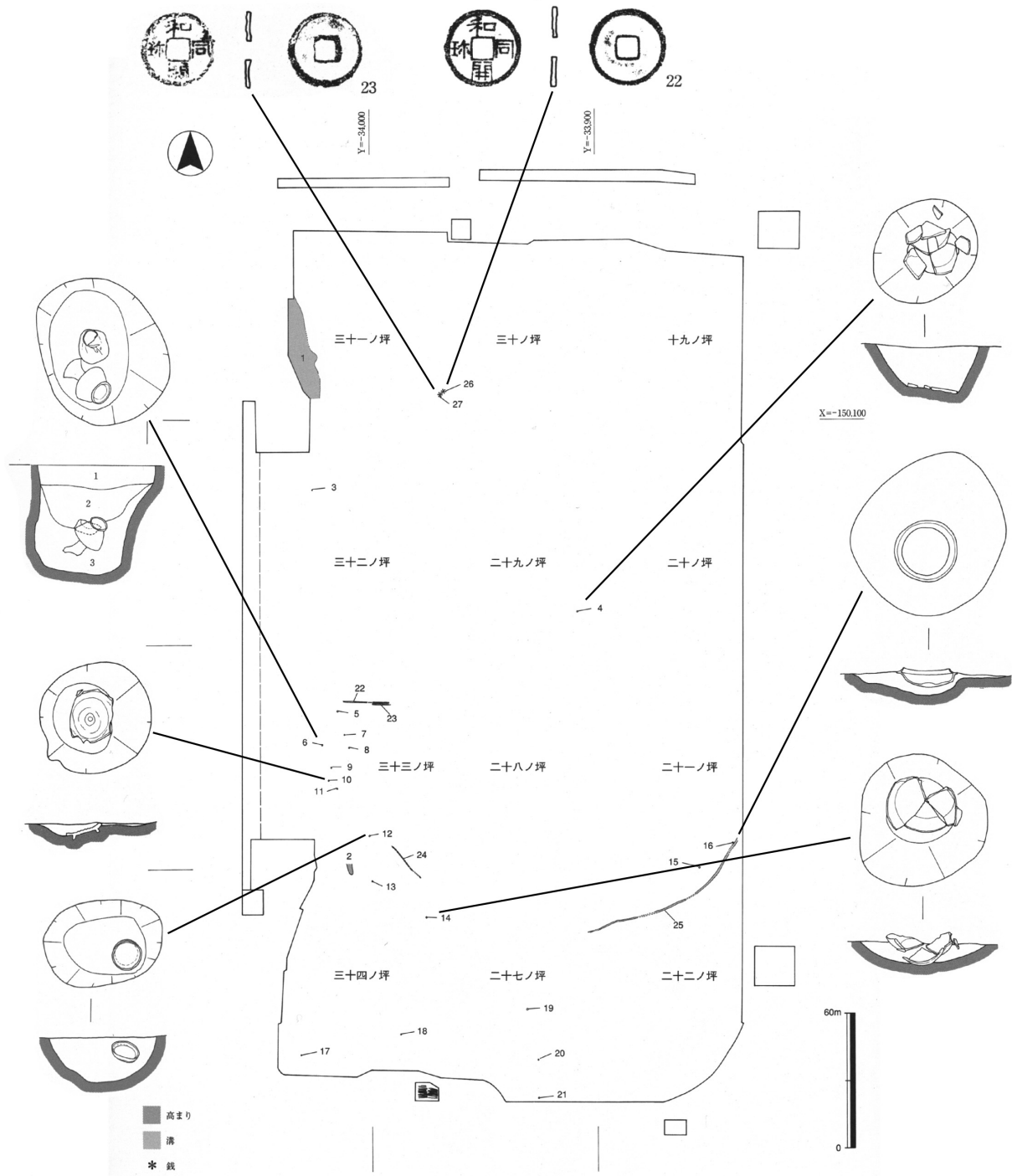
第8面平面図



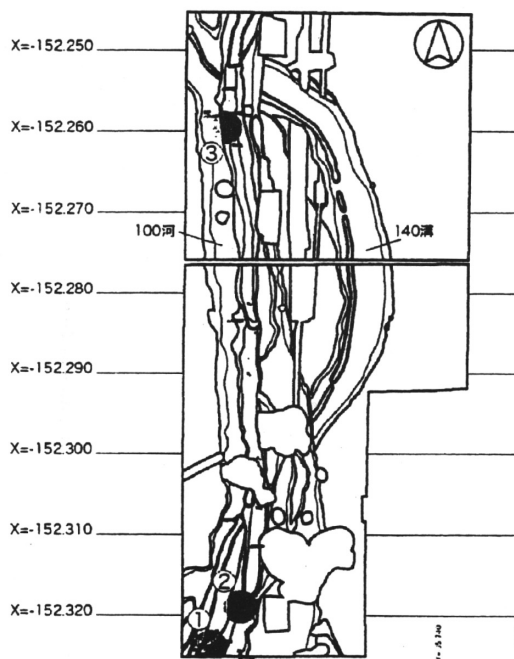
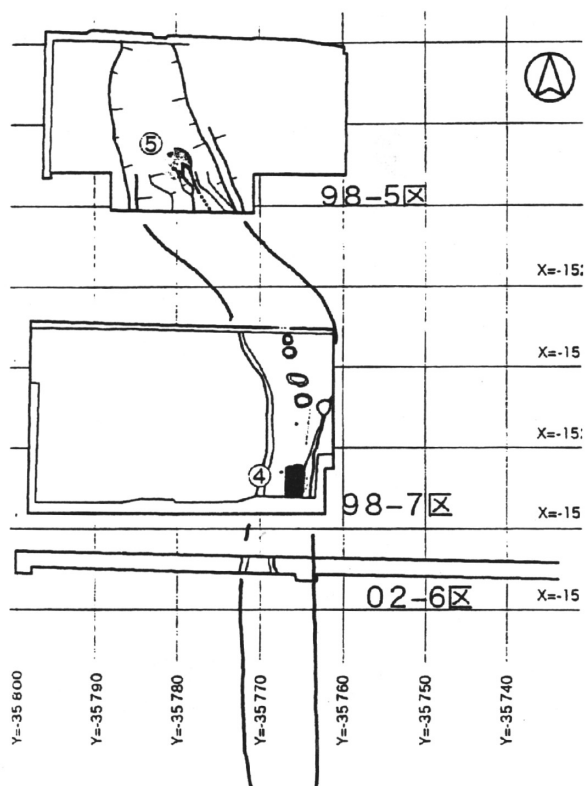
第8層出土銭貨



第7層出土銭貨

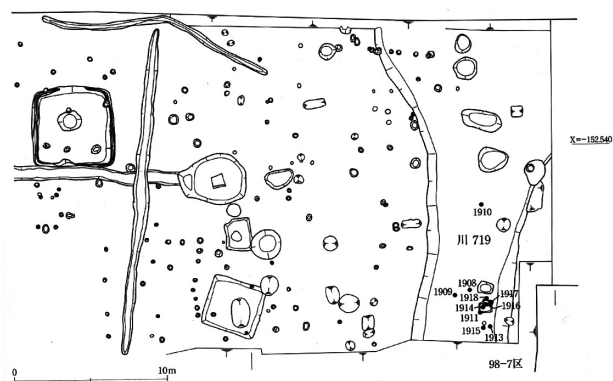
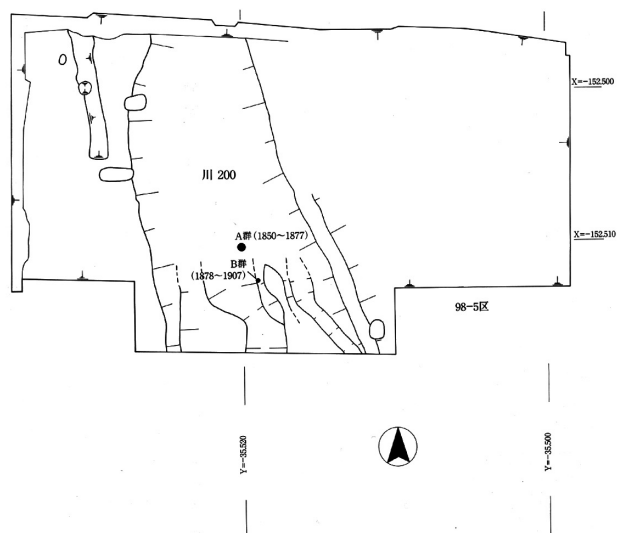


第9層出土銭貨



40次調査区

河川全体図

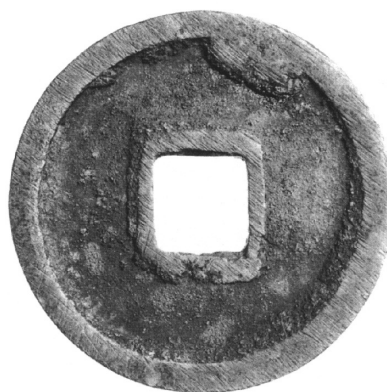


銭貨出土状況

小阪合遺跡 (46・47)

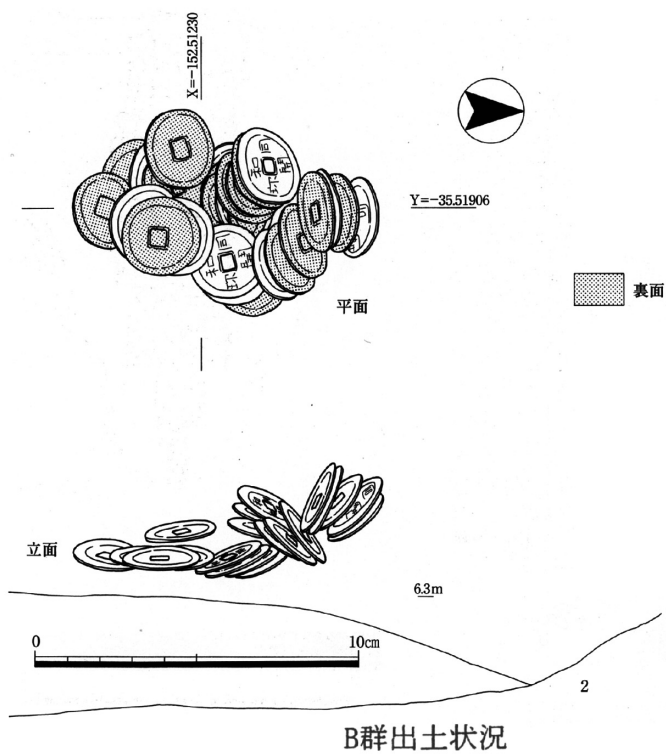


1859



1873

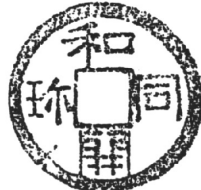
和同開珎表面の研磨痕



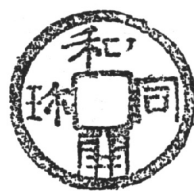
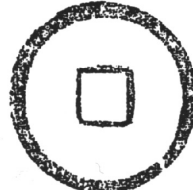
小阪合遺跡 (46)



1850



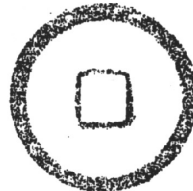
1857



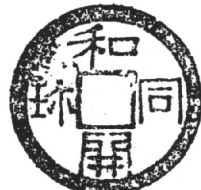
1851



1858



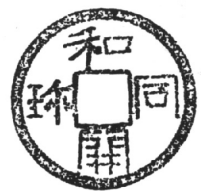
1852



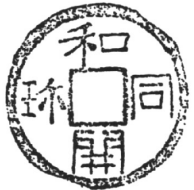
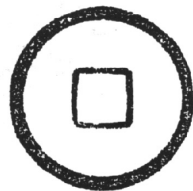
1859



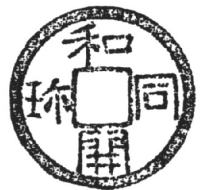
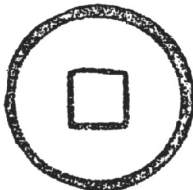
1853



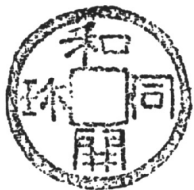
1860



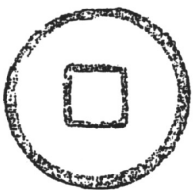
1854



1861



1855



1862



1856



1863

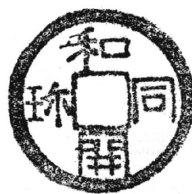


川200 A群 (1850~1863)

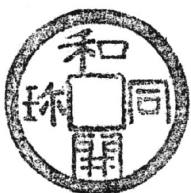
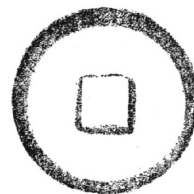
小阪合遺跡 (46)



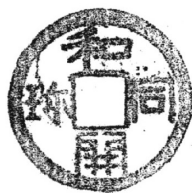
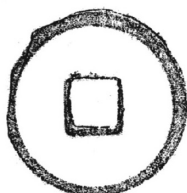
1864



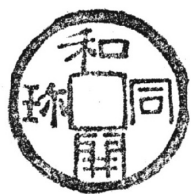
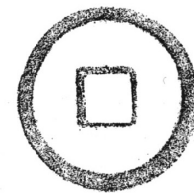
1871



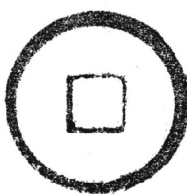
1865



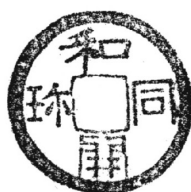
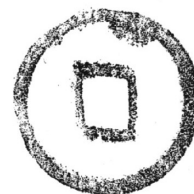
1872



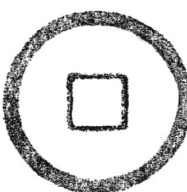
1866



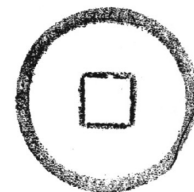
1873



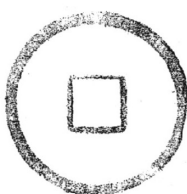
1867



1874



1868



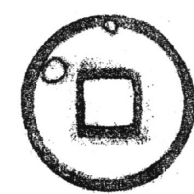
1875



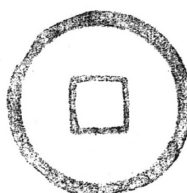
1869



1876



1870

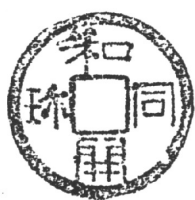


1877



川200 A群 (1864~1877)

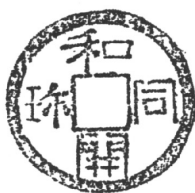
小阪合遺跡 (46)



1878



1885



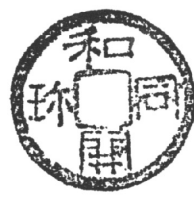
1879



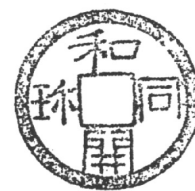
1886



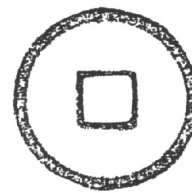
1880



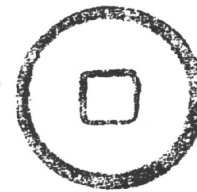
1887



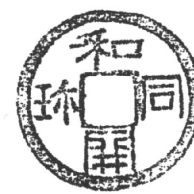
1881



1888



1882



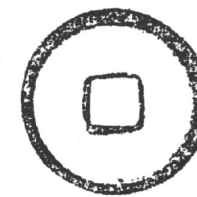
1889



1883



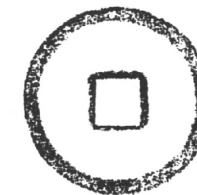
1890



1884



1891

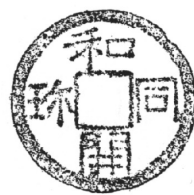
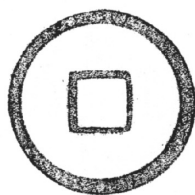


川200 B群 (1878~1891)

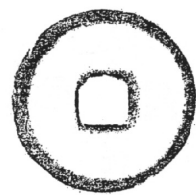
小阪合遺跡 (46)



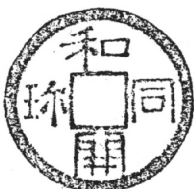
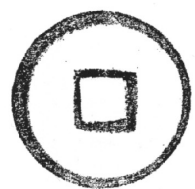
1892



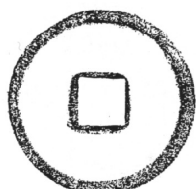
1899



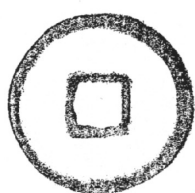
1893



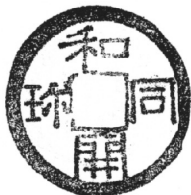
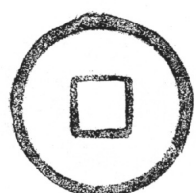
1900



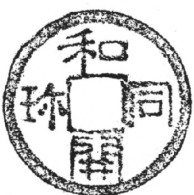
1894



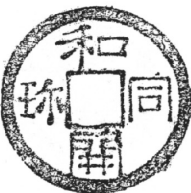
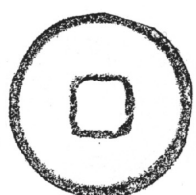
1901



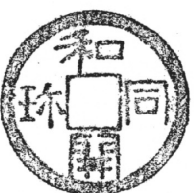
1895



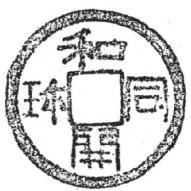
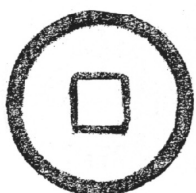
1902



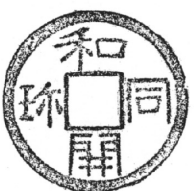
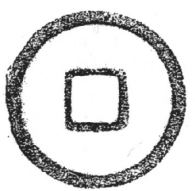
1896



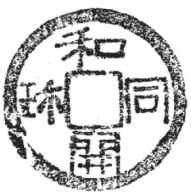
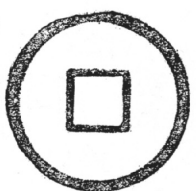
1903



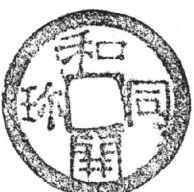
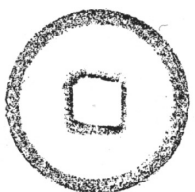
1897



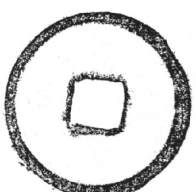
1904



1898

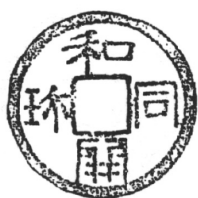


1905

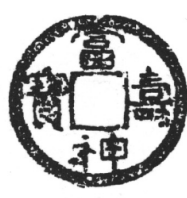
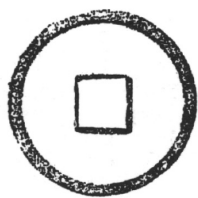


川200 B群 (1892~1905)

小阪合遺跡 (46)



1906



1913



1907



1914



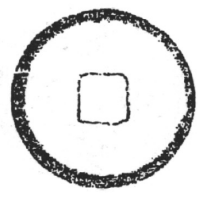
1908



1915



1909



1916



1910



1917



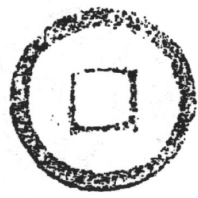
1911



1918

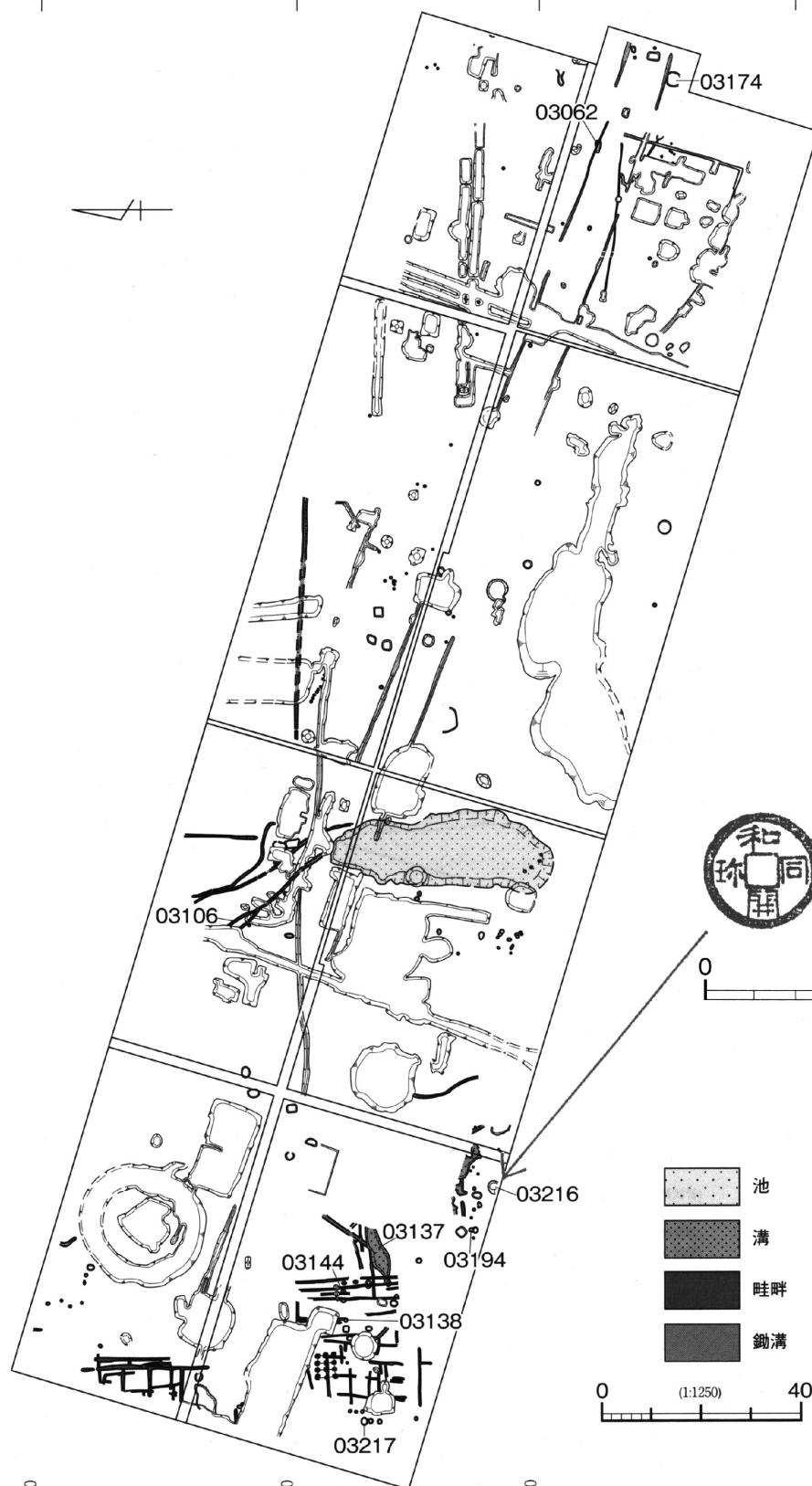


1912



川200 B群 (1878~1907)
川719 (1908~1918)

小阪合遺跡 (46)



X=-153.000

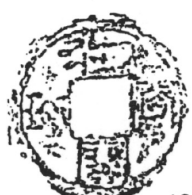
X=-153.050

X=-153.100

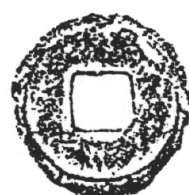
久宝寺遺跡 (49)



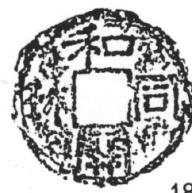
189-1



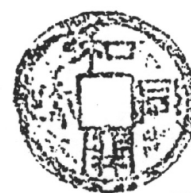
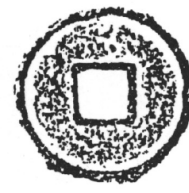
189-2



189-3



189-4



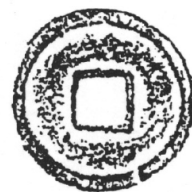
189-5



189-6



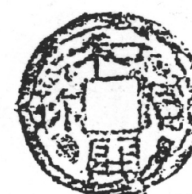
189-7



189-8



189-9



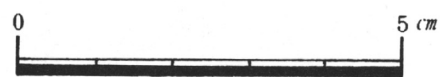
189-10



189-11



亀井遺跡 (50)



189-23

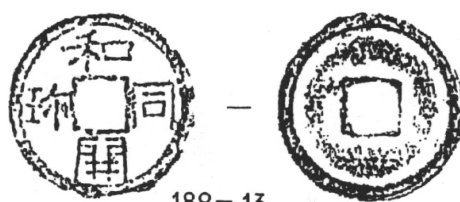


189-24

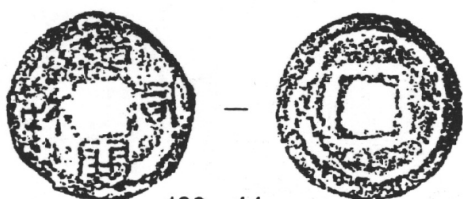




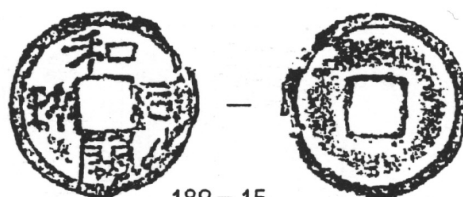
189-12



189-13



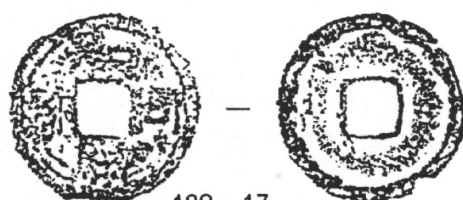
189-14



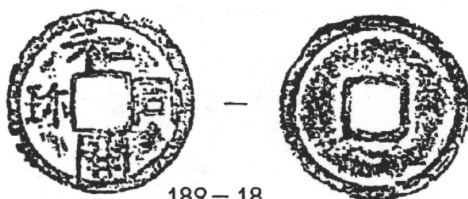
189-15



189-16



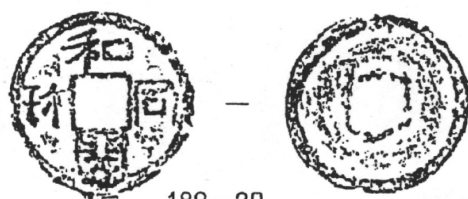
189-17



189-18



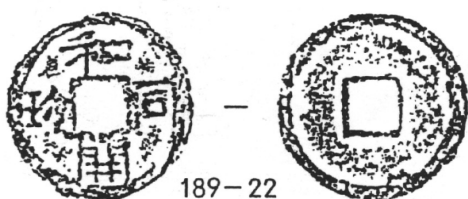
189-19



189-20

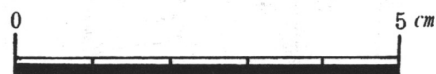


189-21



189-22

亀井遺跡 (50)



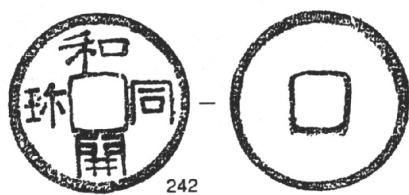
189-25



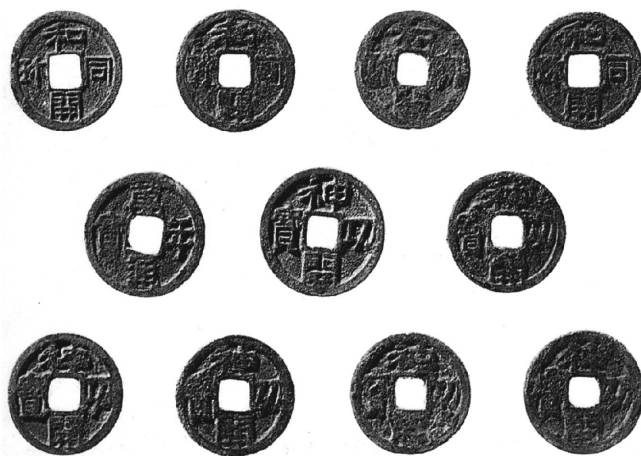
189-26



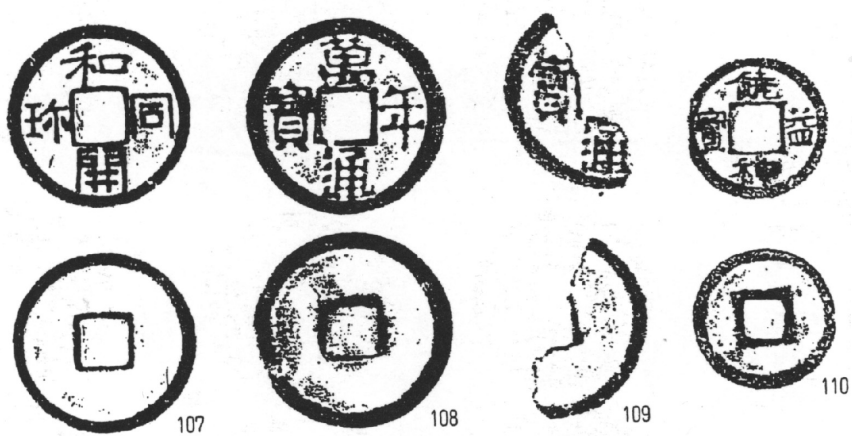
SD401出土墨面土器



加美遺跡 (57)



加美遺跡 (58)

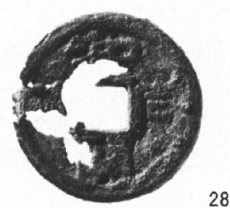


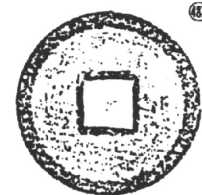
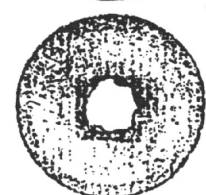
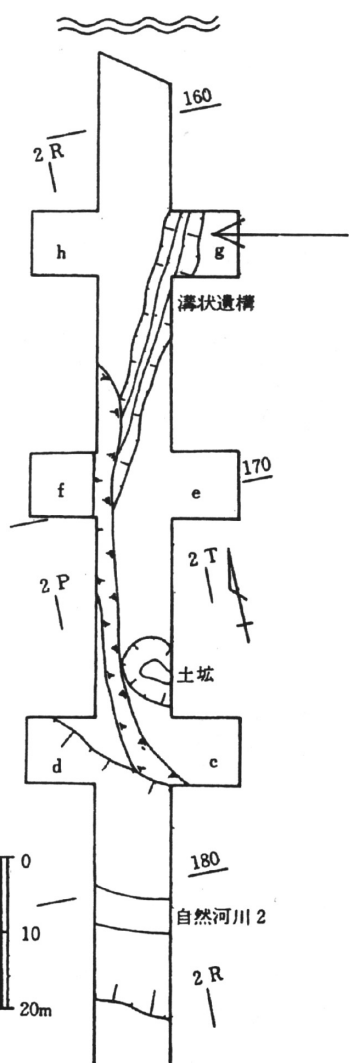
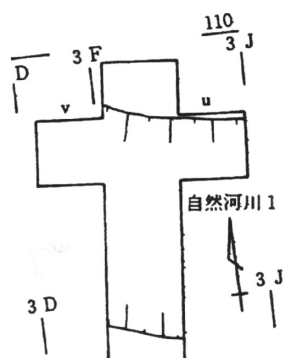
長原遺跡 (60)

長原遺跡 (61)

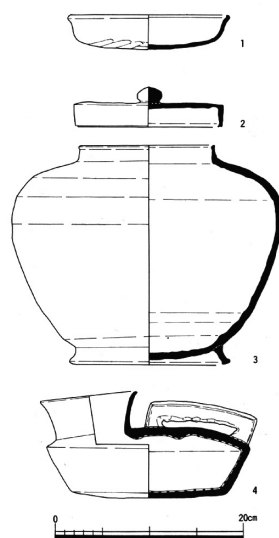
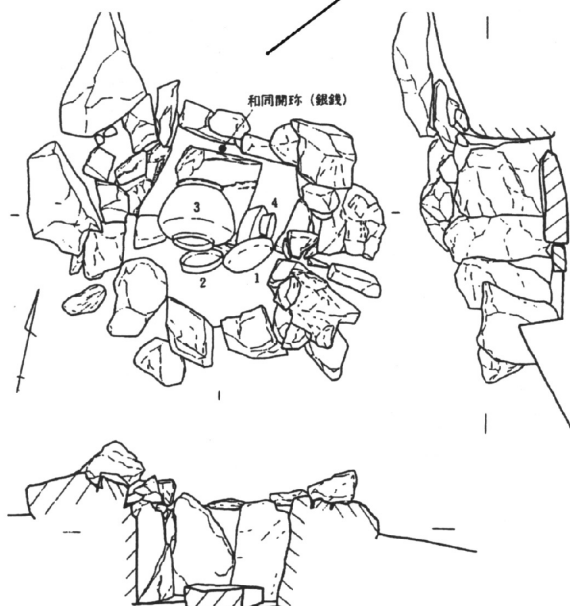
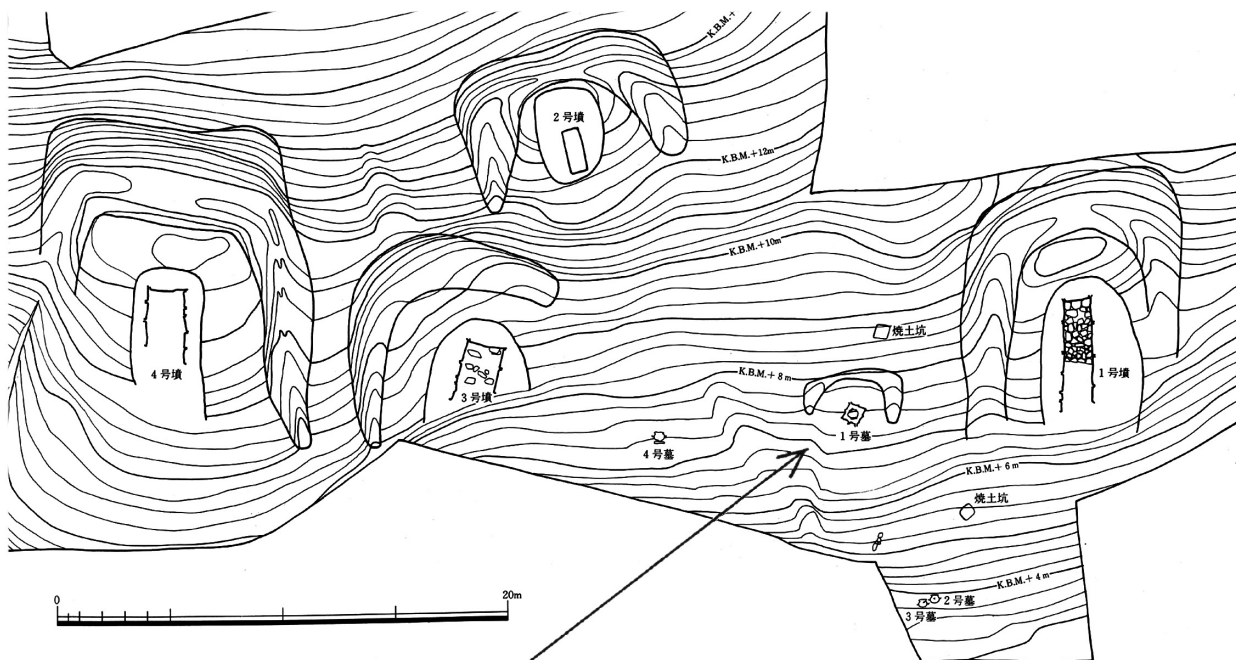


瓜破遺跡 (62)

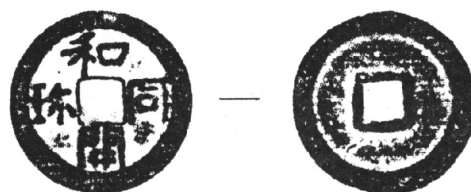




飛鳥・奈良・平安時代遺構略図

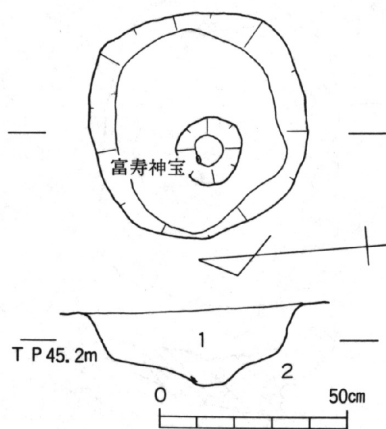


銅錢



銀錢

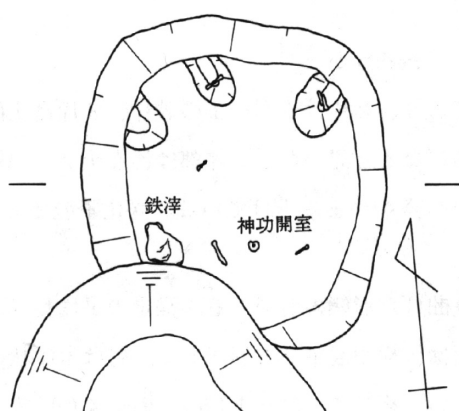
平尾山1号墓 (63)



1. 黒灰色粘質土 2. 褐色粘質土



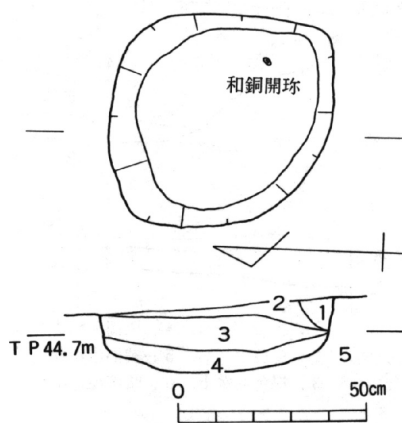
古墓一2



T P 45.4m

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 暗褐色土 | 4. 黒灰色粘質土 (炭混) |
| 2. 淡黒灰色粘質土 (炭混) | 5. 褐色砂質土 |
| 3. 暗褐色土+黒灰色粘質土 | 6. 褐色粘質土 |

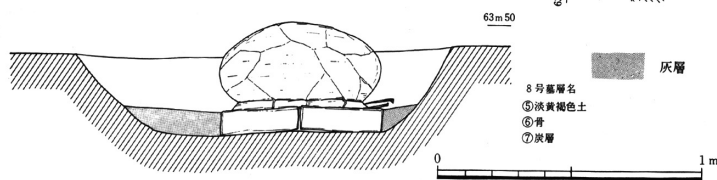
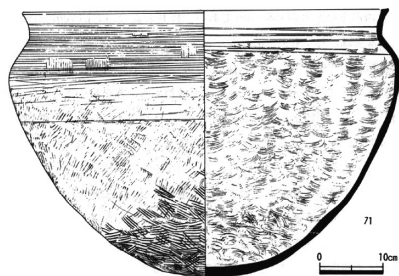
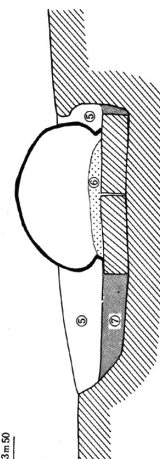
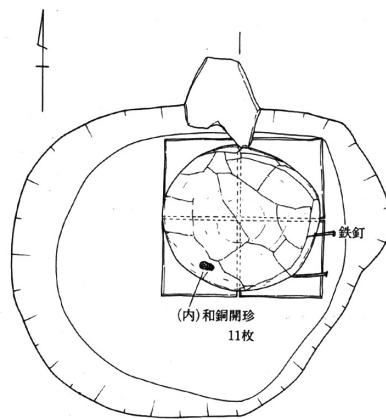
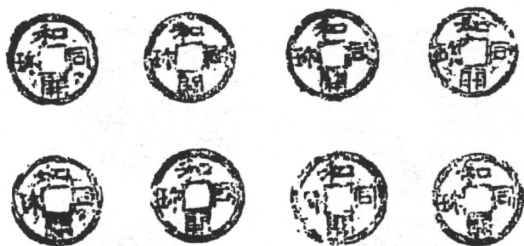
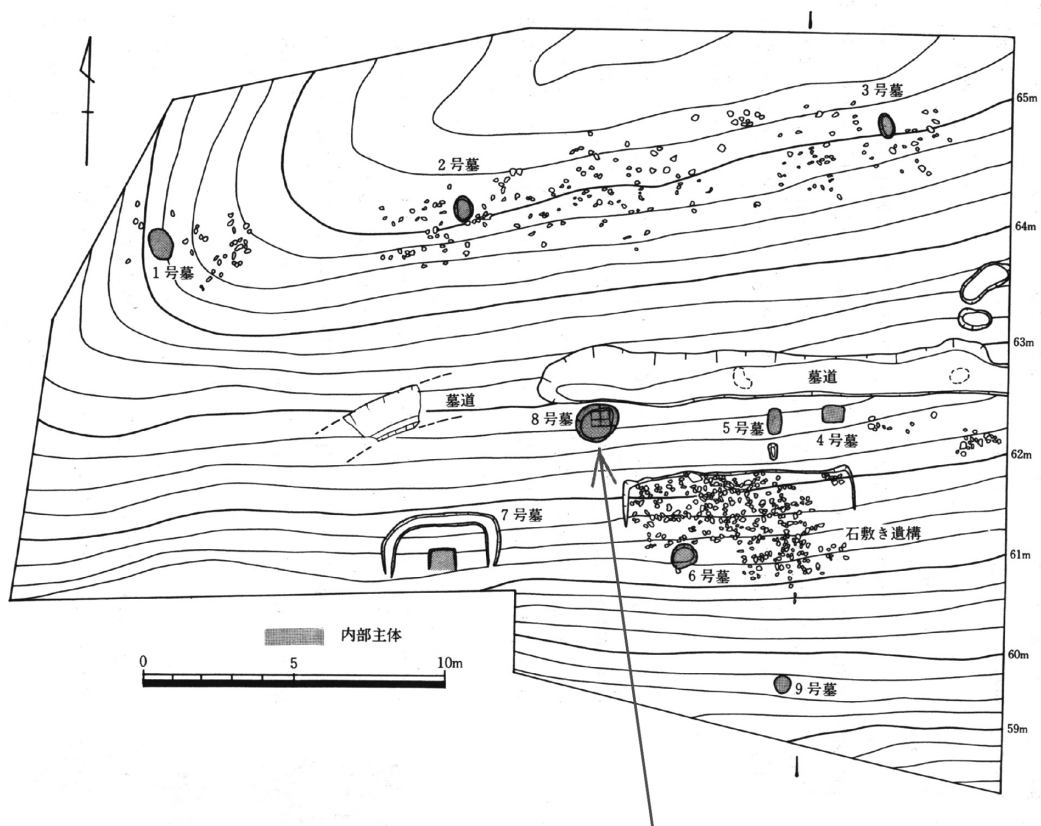
古墓一3



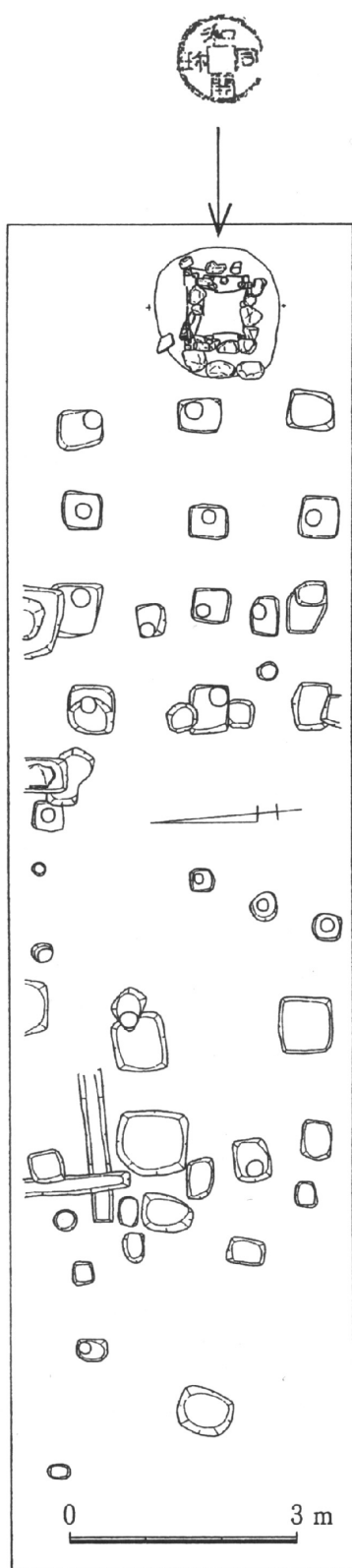
- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 褐色砂質土 | 3. 黒灰色粘質土 (炭混) |
| 2. 暗褐色土+黒灰色粘質土 | 4. 褐色砂質土 |
| | 5. 褐色粘質土 |



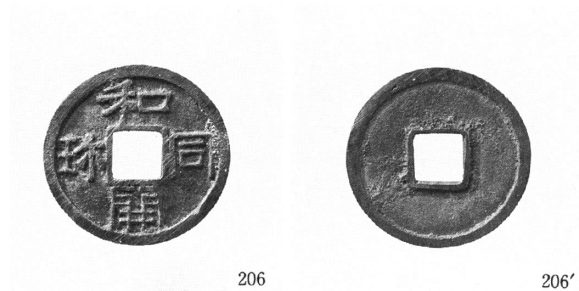
古墓一4



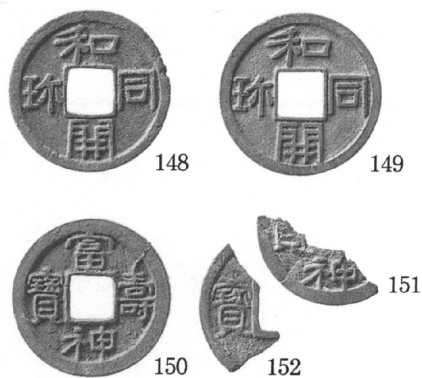
田辺8号墓 (65)



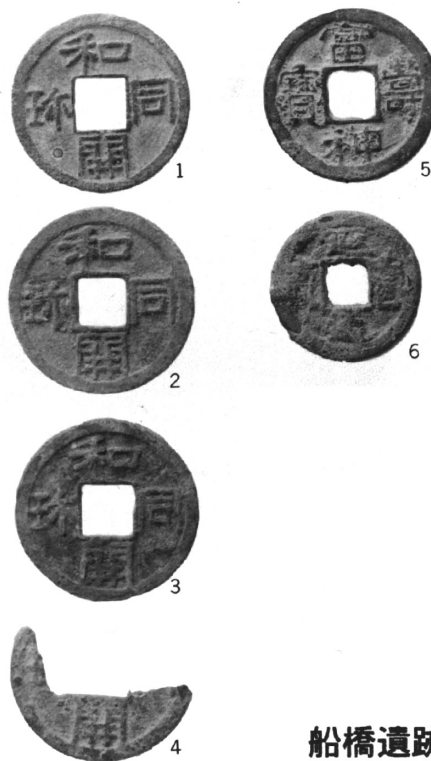
大県南遺跡 (67)



田井中遺跡 (54)



田井中遺跡 (55)



船橋遺跡 (70)



1



2

西大井遺跡 (74)



1



2



3



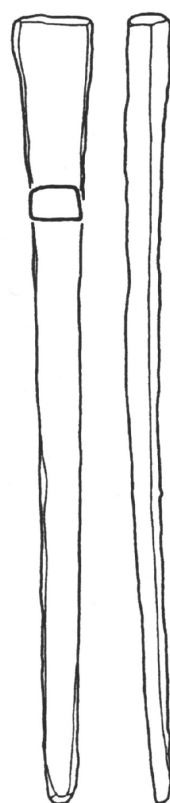
4



5

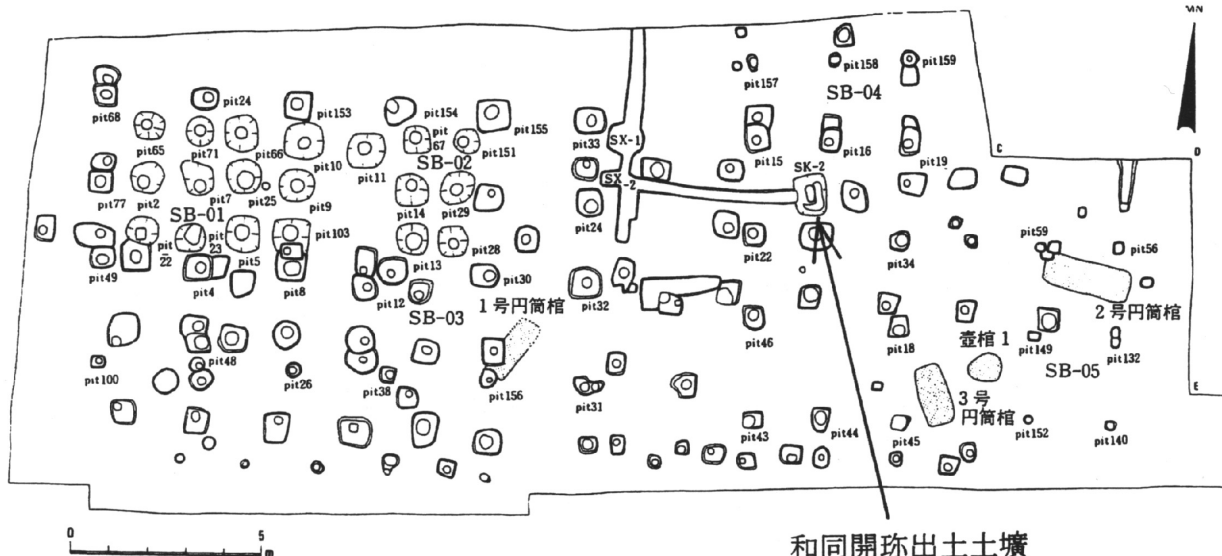


6



0 10cm

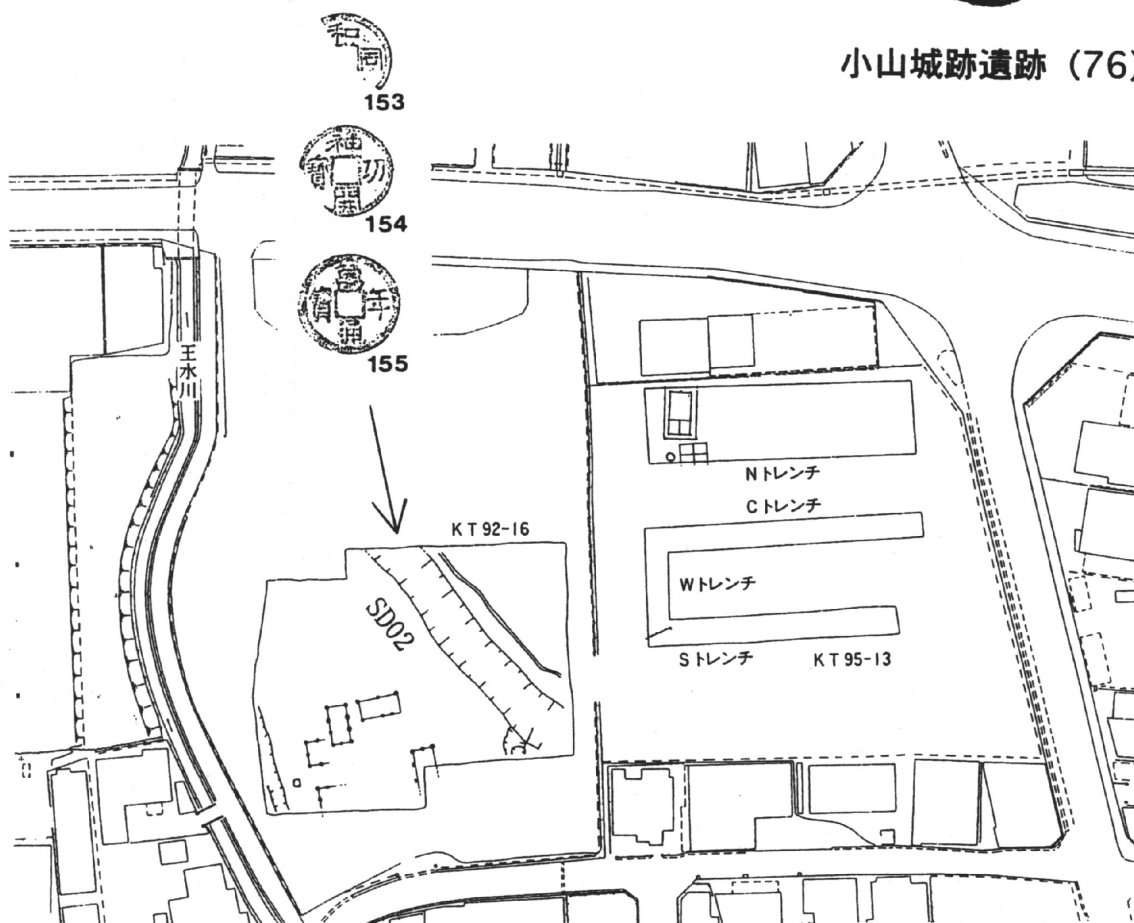
西大井遺跡 (73)



北岡遺跡 (77)



小山城跡遺跡 (76)



北岡遺跡 (78)



土師の里遺跡 (81)



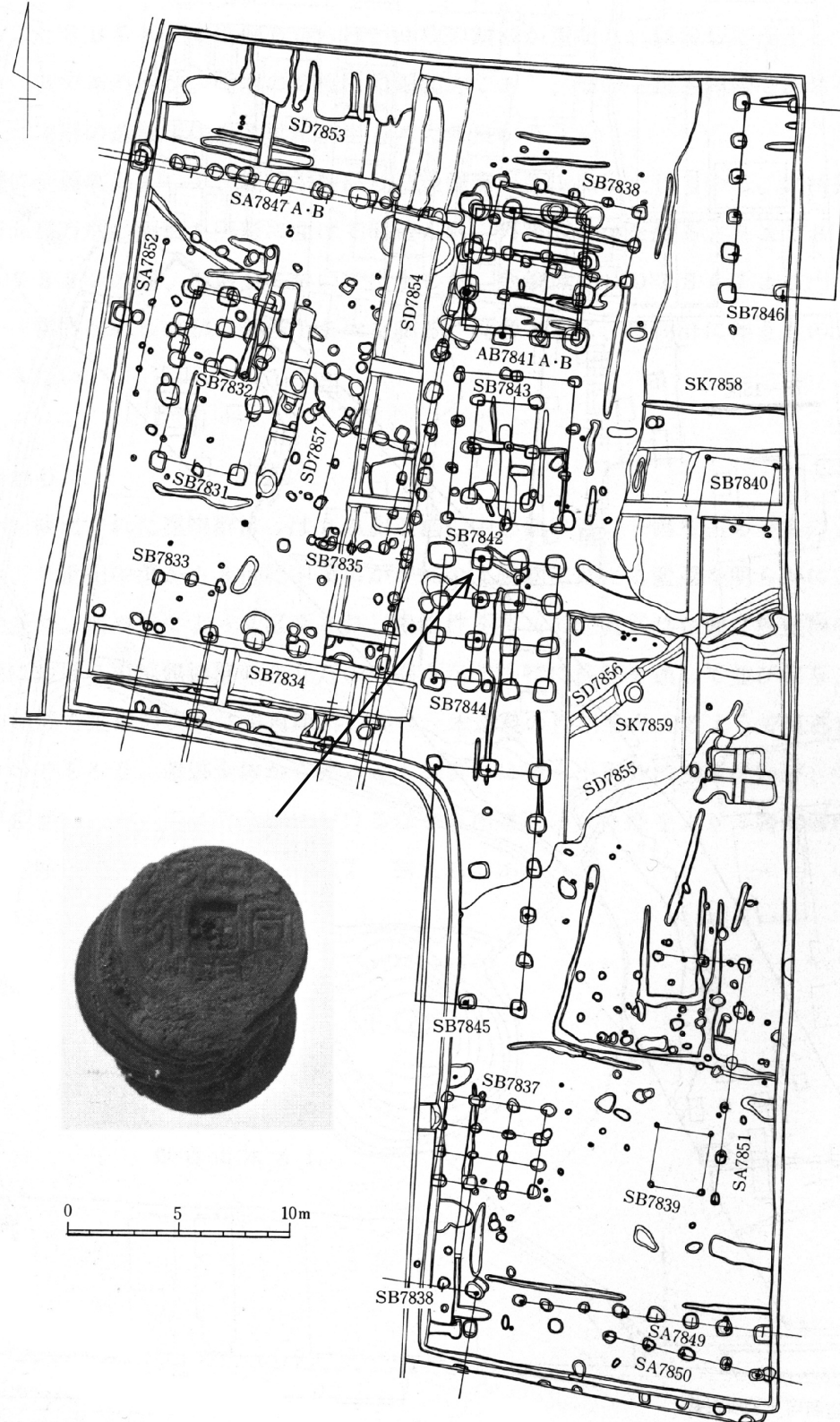
10

11



はさみ山遺跡 (82・83)

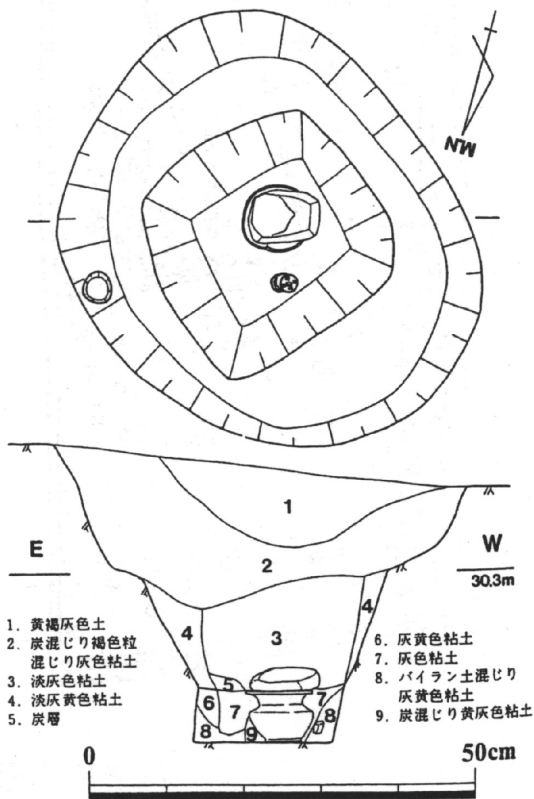
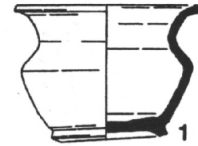
M.N.



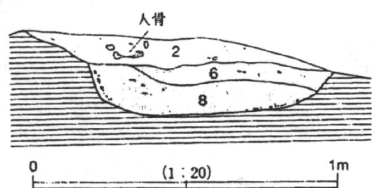
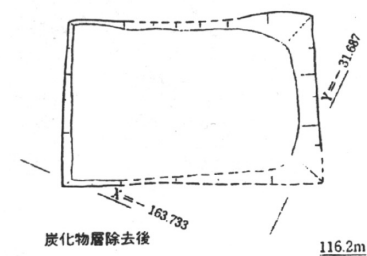
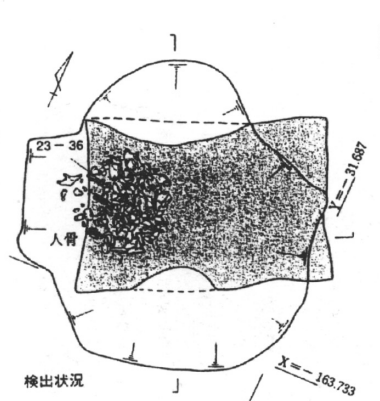
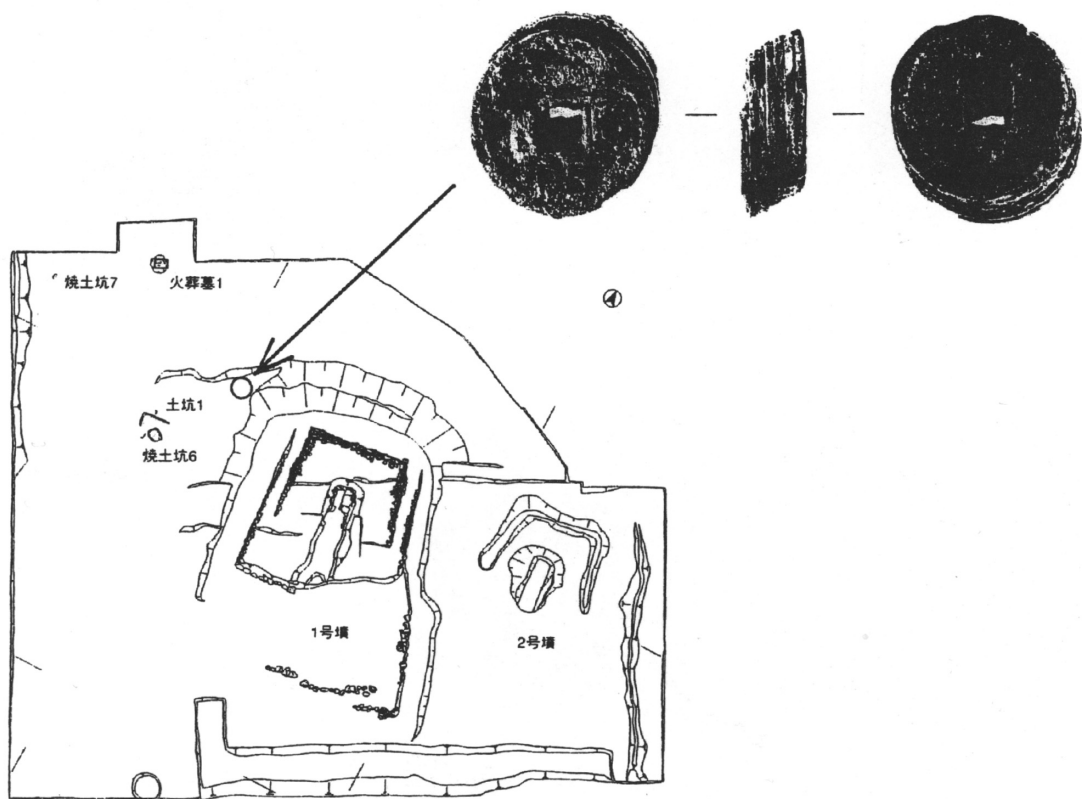
はさみ山遺跡 (84)



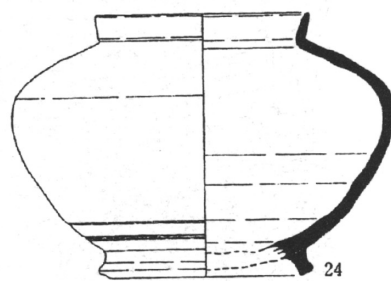
葛井寺遺跡 (79)



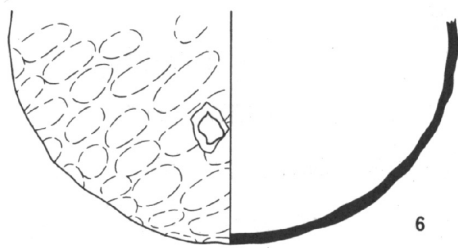
はさみ山遺跡 (85)



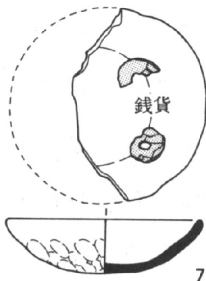
火葬墓1



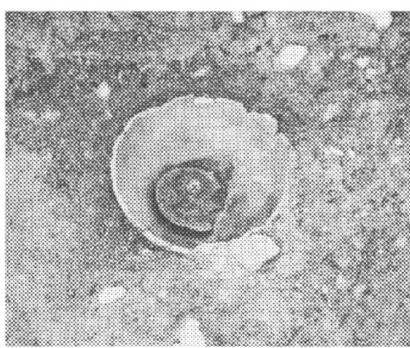
推定蔵骨器



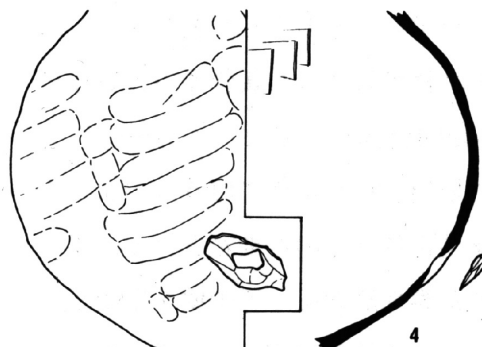
6



7



第1号墓



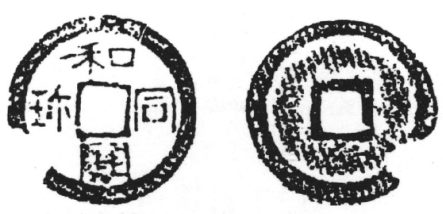
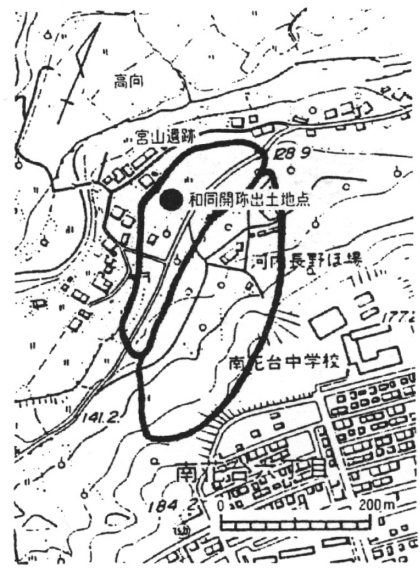
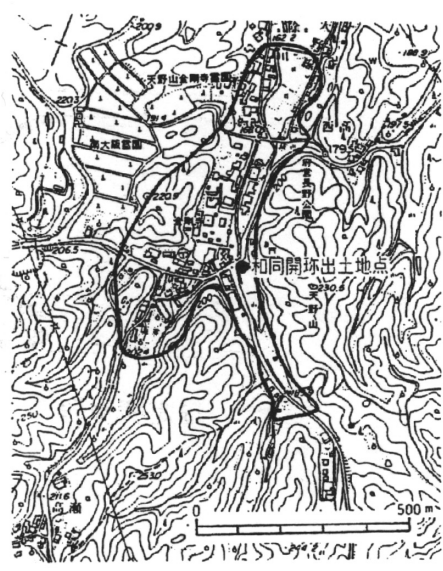
4



5

甲田南遺跡 (90)

第3号墓



金剛寺遺跡 (91)



宮山遺跡 (92)



2



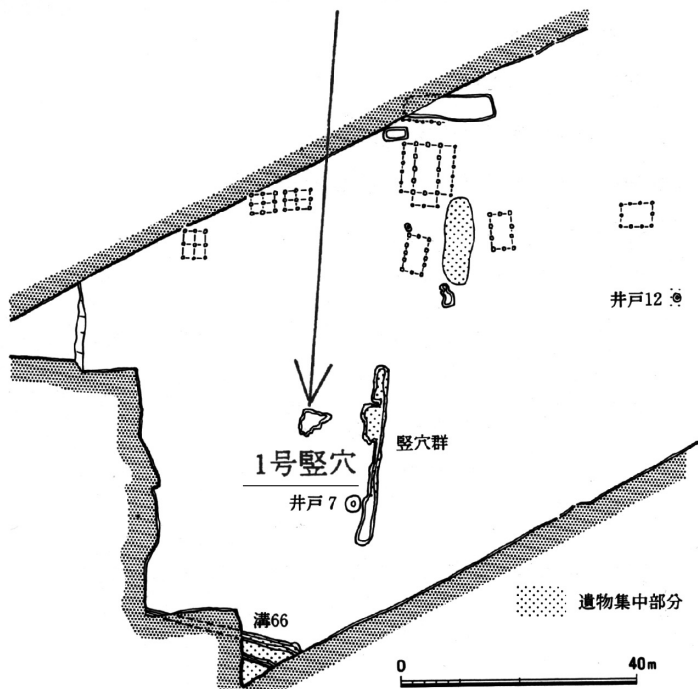
3

真福寺遺跡 (94)

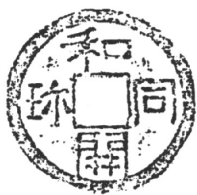


1

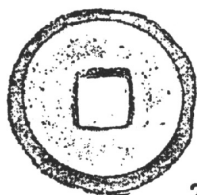
大和川今池遺跡 (96)



太井遺跡 (93)

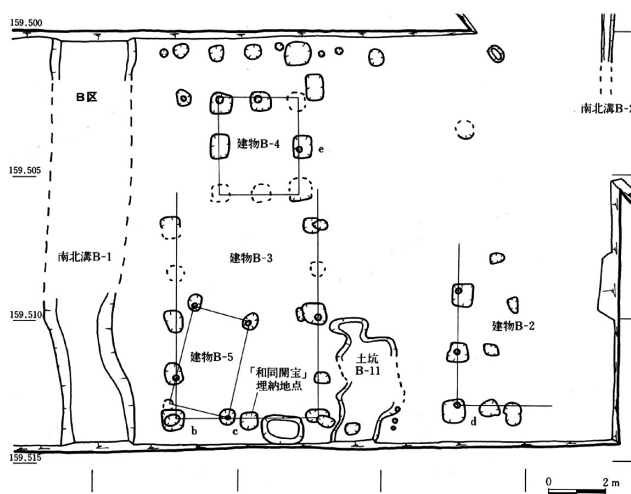


1

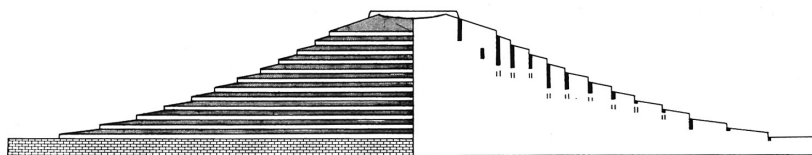
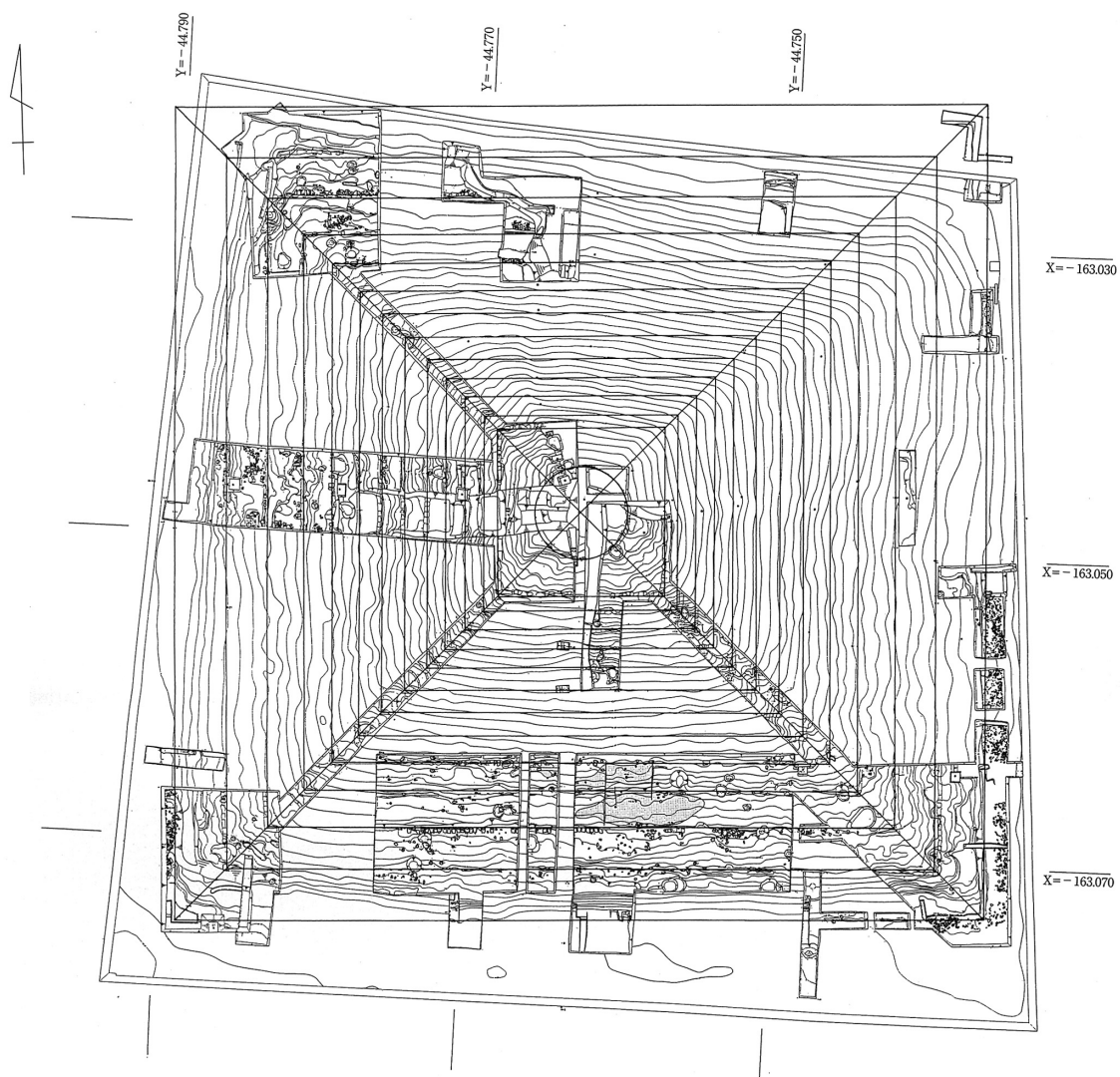


2

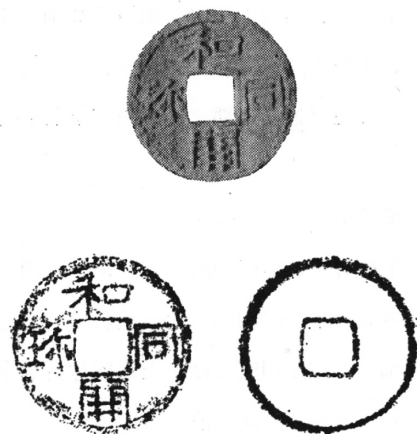
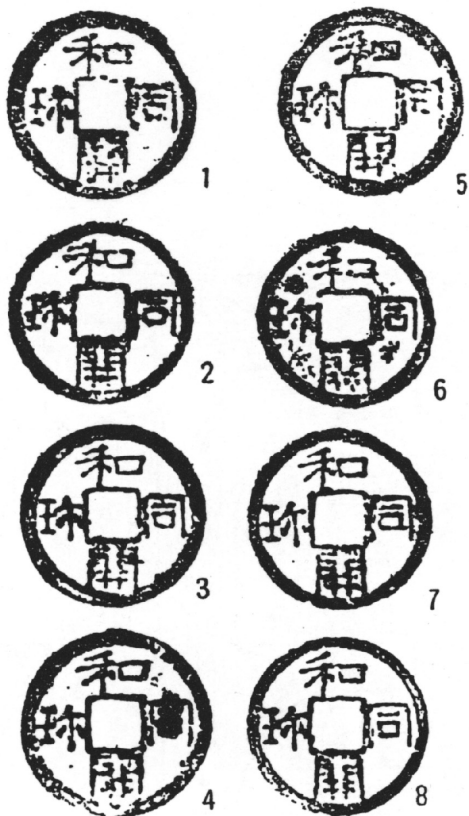
応神陵古墳外堤 (87)



岡2丁目遺跡 (95)

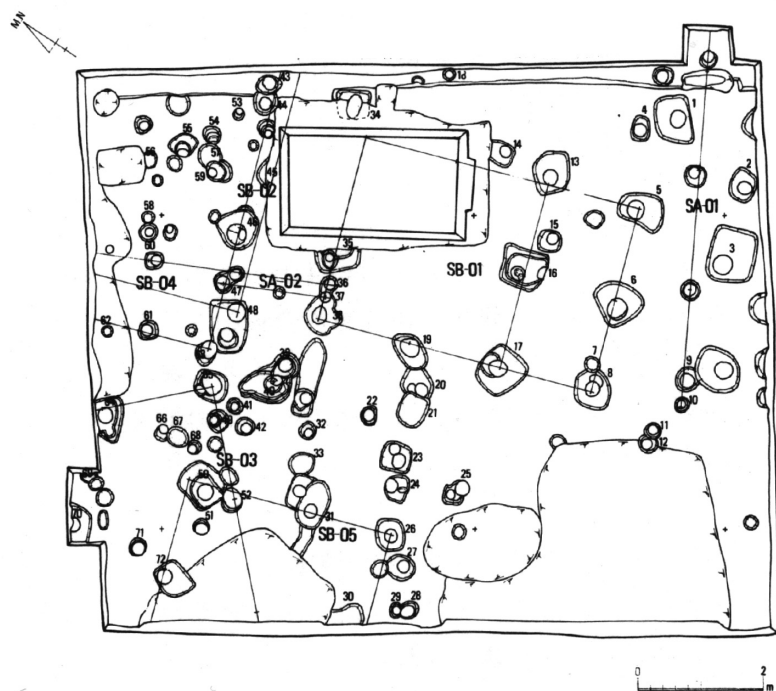


土塔 (99)



豊中・古池遺跡 (100)

信太山 (101)



湊遺跡 (103)